

わたしは
こんなところで
何を……

こんな簡単な
罠に引っかかる
なんて……

貞操戦隊

ヴァンナカローズ
最終話

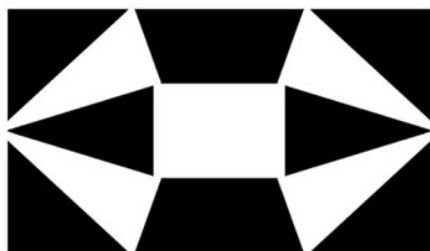
主な登場人物



アカリ
ヴァジナレッド
ヴァジナカラーズ隊長



ヨミ
WSAの戦闘訓練
トレーナー



WSA
(ホワイトサファイアアカデミー)



ヴァジナホワイト
WSA所属の
ヴァジナ隊員



ミオリ
WSAメカニック



アカネ
WSA最高司令官
アカリの母親



スパイとして潜入



キリノ
ブラックゲノム
ヴィラネス



シオン
ブラックヴァジナ
パープル



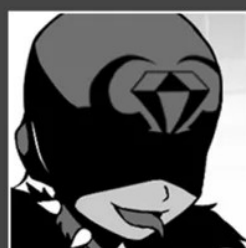
クロエ
黒きダイヤ幹部



ミコク
クロエの従順なる
部下



ミドリコ
ブラックヴァジナ
グリーン



黒き獣
元ヴァジナ隊員



黒き戦闘員
元ヴァジナ隊員



アオイ
元ヴァジナブルー
黒き戦闘員



黒きダイヤ

あらすじ

悪の組織「黒きダイヤ」によって次々と取り込まれてしまうヴァジナカラーズたち……
残るはヴァジナカラーズ隊長のヴァジナレッド・アカリひとりのみとなってしまう。
果たしてアカリは捕らえられた母やヴァジナ隊員、そして世界を救えるのか……



少し頼りないけど
とてもやさしい
お父さん……



物静かで
しつかり者の
お母さん……



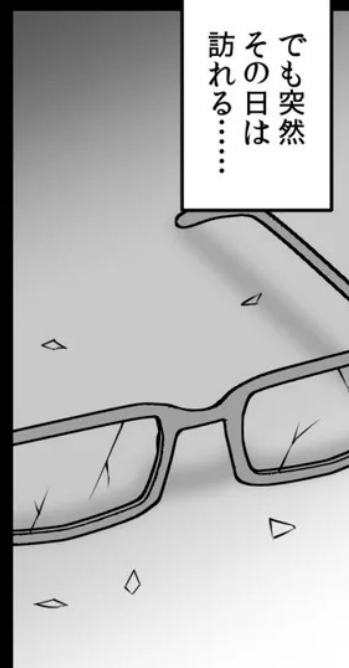
この幸せな時間が
ずっと続くものだ
と
思っていた

わたしは
そんな二人が
大好きだった



WSAの
研究員だった
お父さんが
暗殺されたのだ

黒きダイヤに
よって……



でも突然
その日は
訪れる……





あのとき
わたしは
お母さんと
誓ったんだ……

お願い……



あの人の
仇を
討って……

アカリ……



うんッ！

必ずお父さんの
仇を討つって……



それなのに……

まったく……

本当にバカね
アカリ



ミドリコ先輩の
能力がこんなにも
強力だなんて……



か……

身体が
動かない……



くっ……
お母さんは……

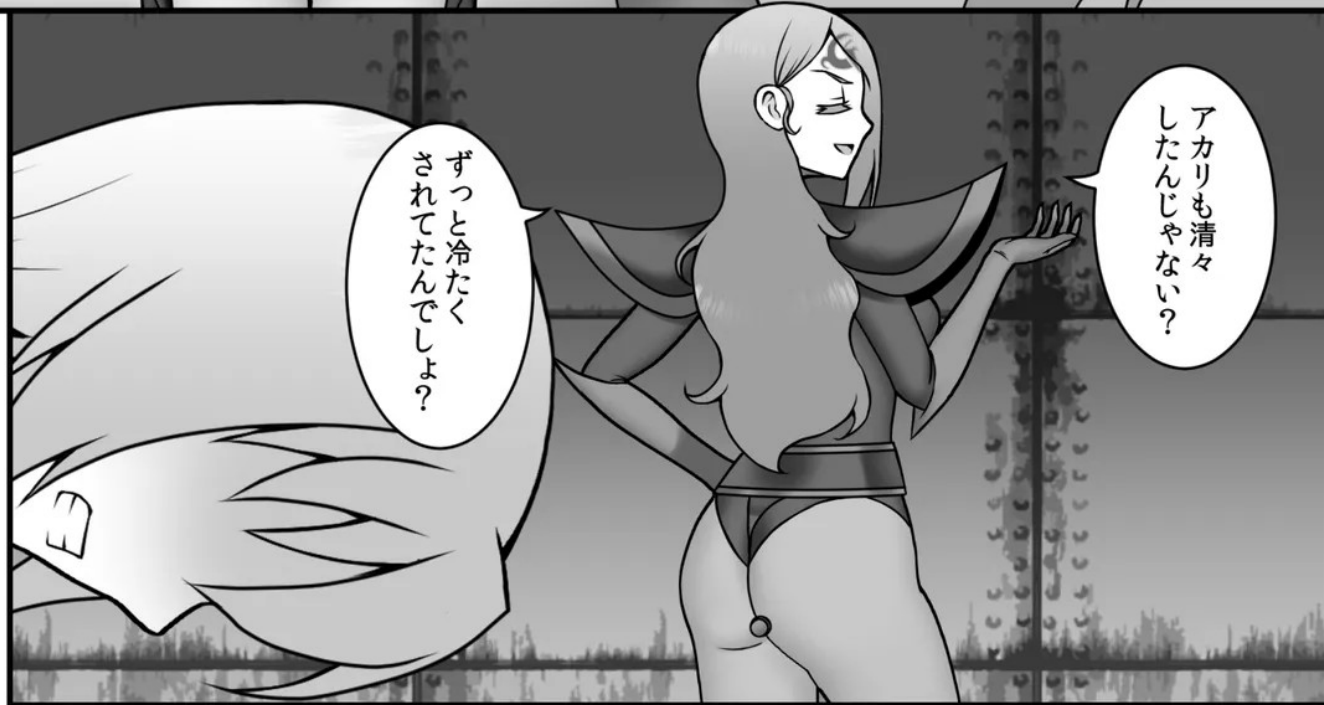
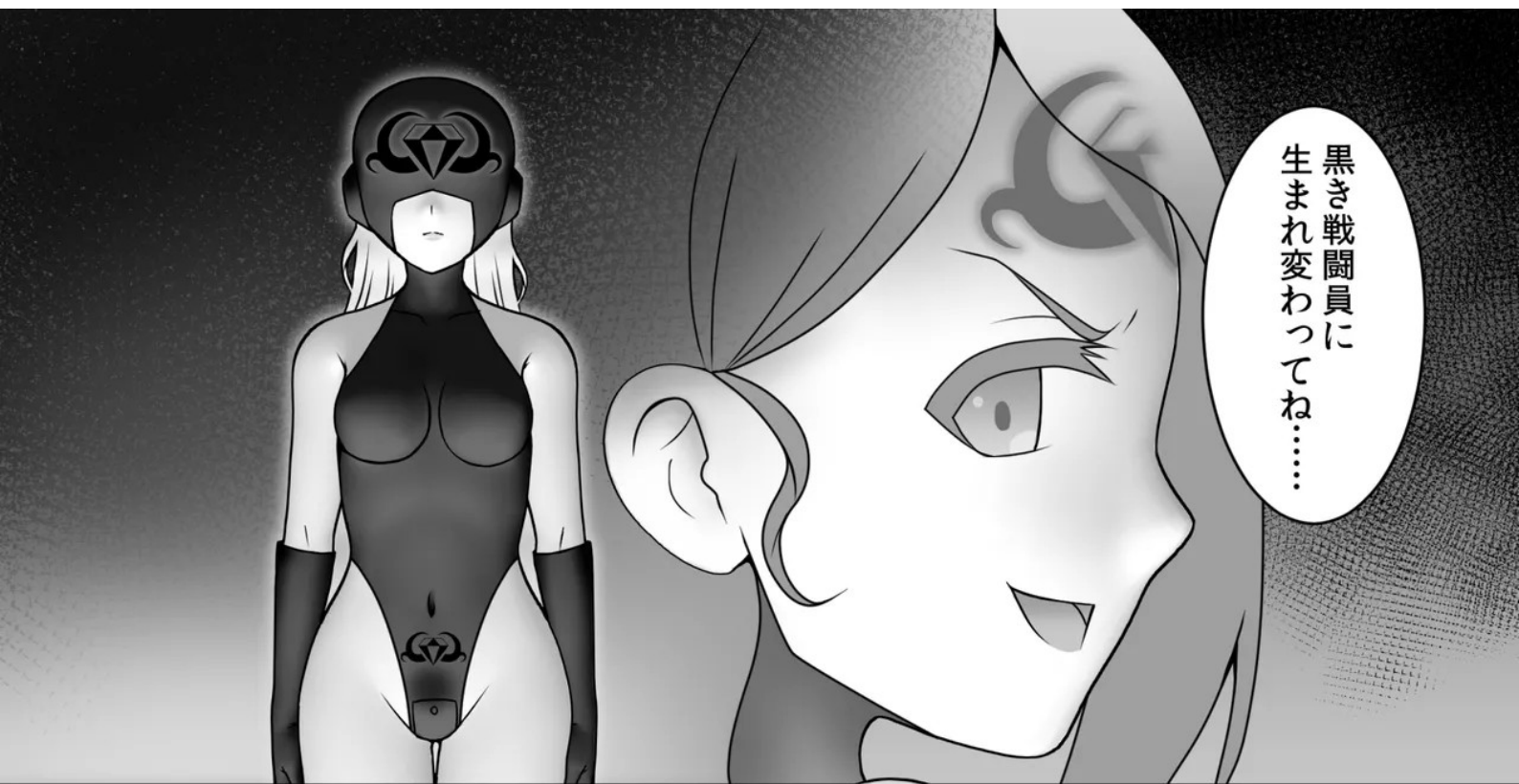
アカネ司令は
無事なの？

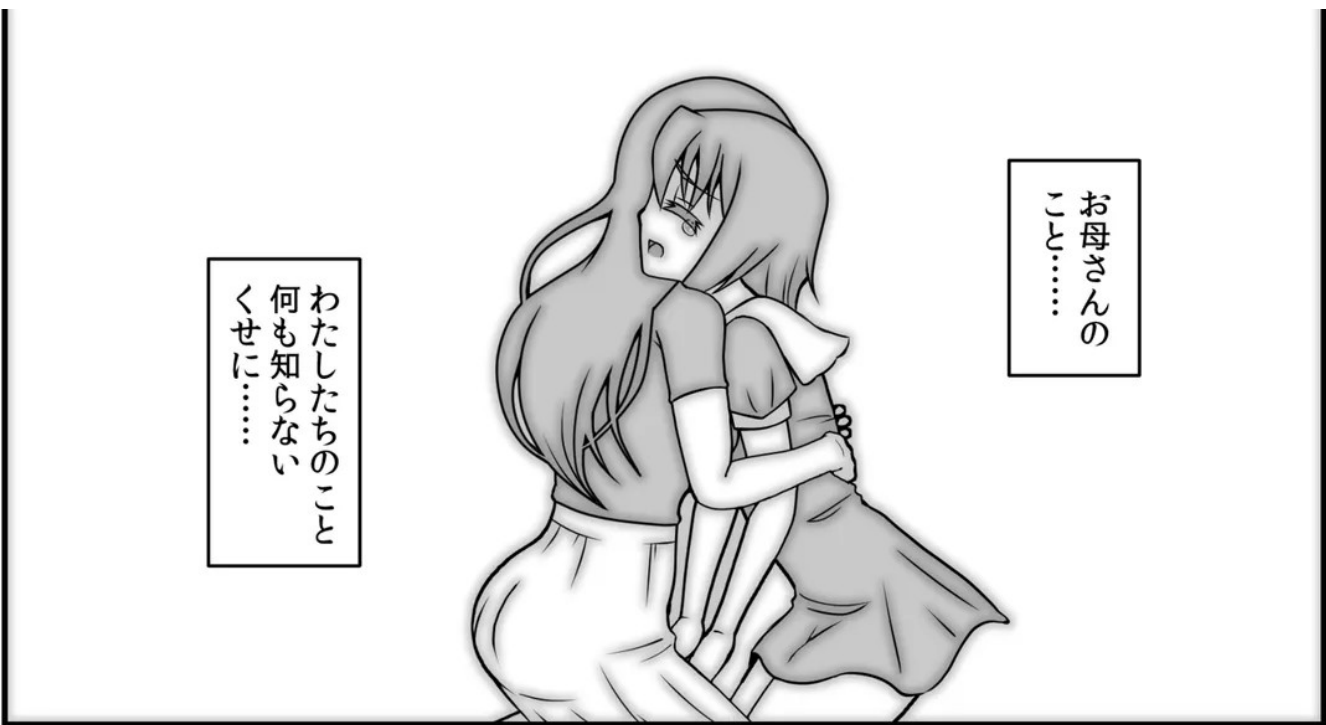
あらあら……
こんな状況なのに
アカネ司令の心配？



アカネ司令なら
クロエ様に
可愛がつて
いただいているわ

あの堅物の
司令も今ごろは
素直になつて
ことでしょう



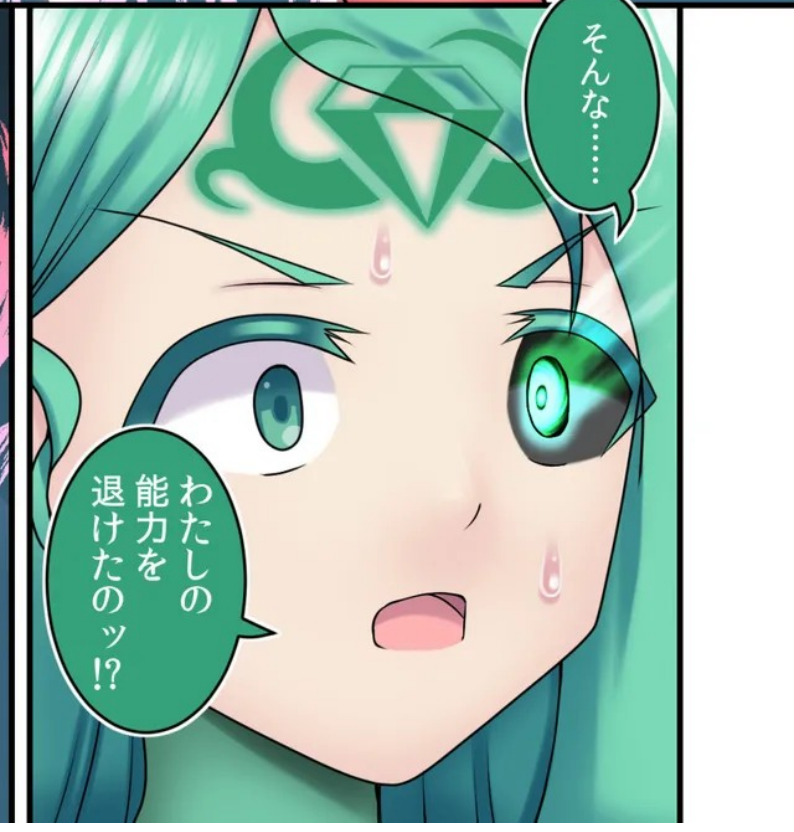




必ず
お父さんの仇を
討つて……



もう誰も
わたしの邪魔は
させない！

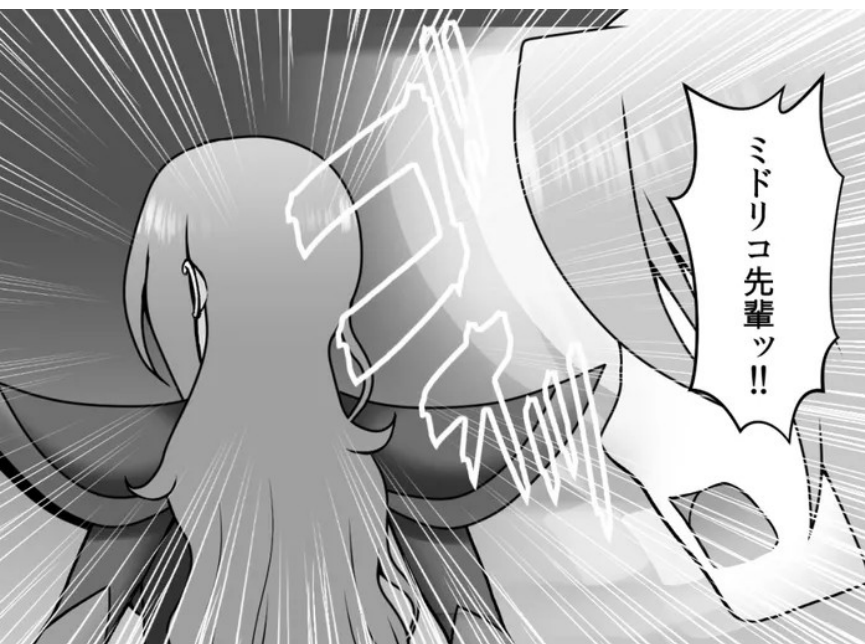


そんな……

わたしの
能力を
退けたのッ！







ミドリコ先輩!!



もう誰も
わたしには
追いつけないッ!

これで
最後です

カッ



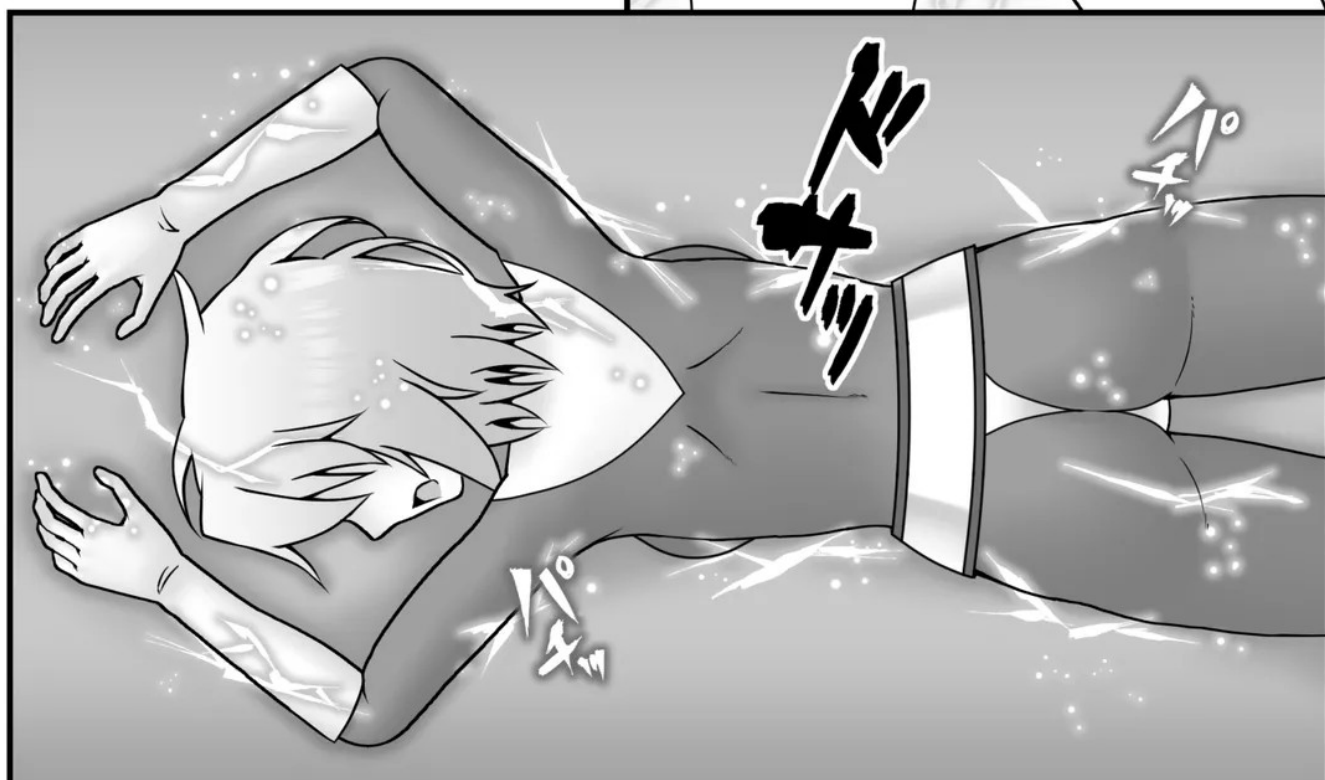
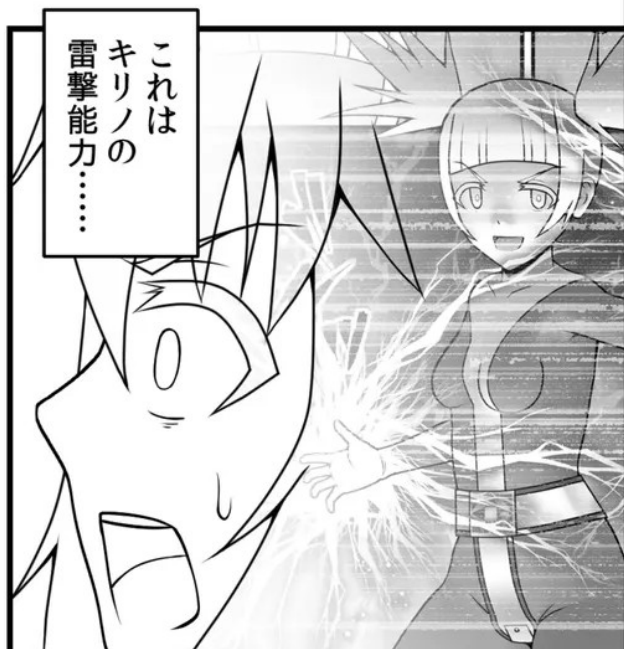
よく耐えて
くれました
ミドリコ先輩

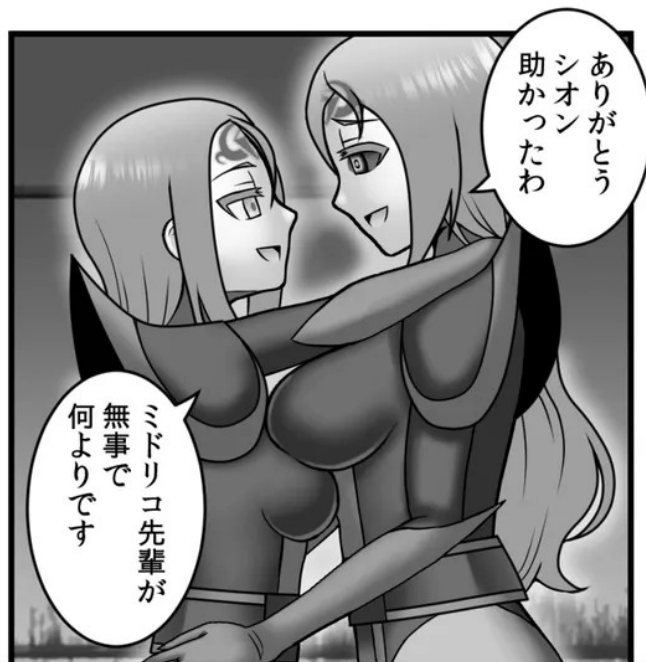
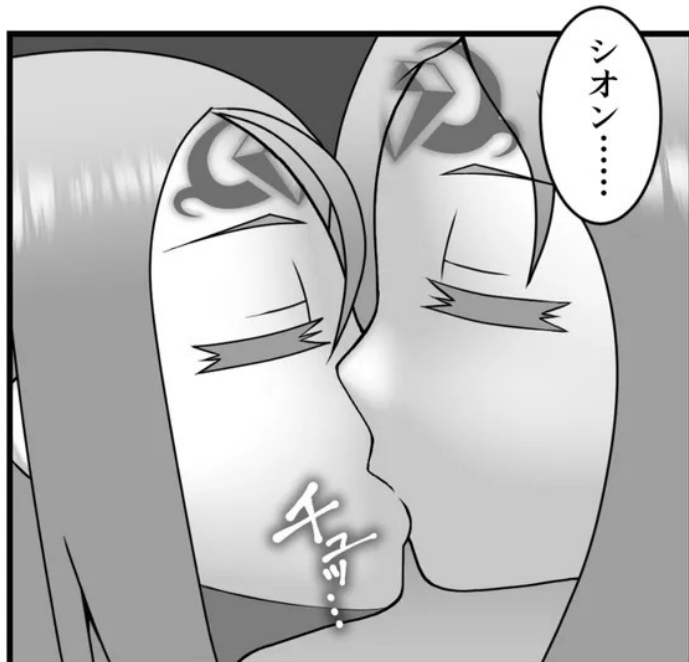
カッ

カッ



シオンッ?!







はッ!!

ここは……?

わたしは
いたい……



よく
似合ってるわ
アカリ



それになに
この格好……

わたし
いつのまに……



わたしの
精神世界……
本当に……？

また何かの
罠なんじゃ……

あら……
まだ疑って
いるの？

それじゃあ……

足を開いて
いやらしく
服従のポーズを
取りなさい

そんなこと
するわけ……

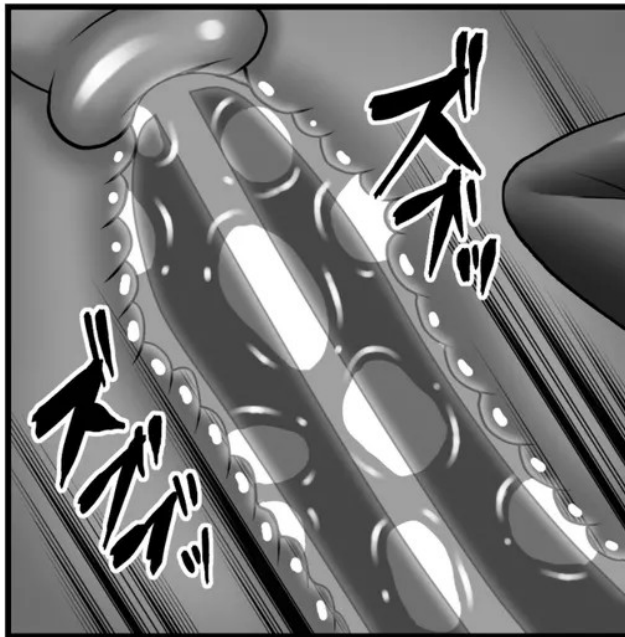
……ッ？！

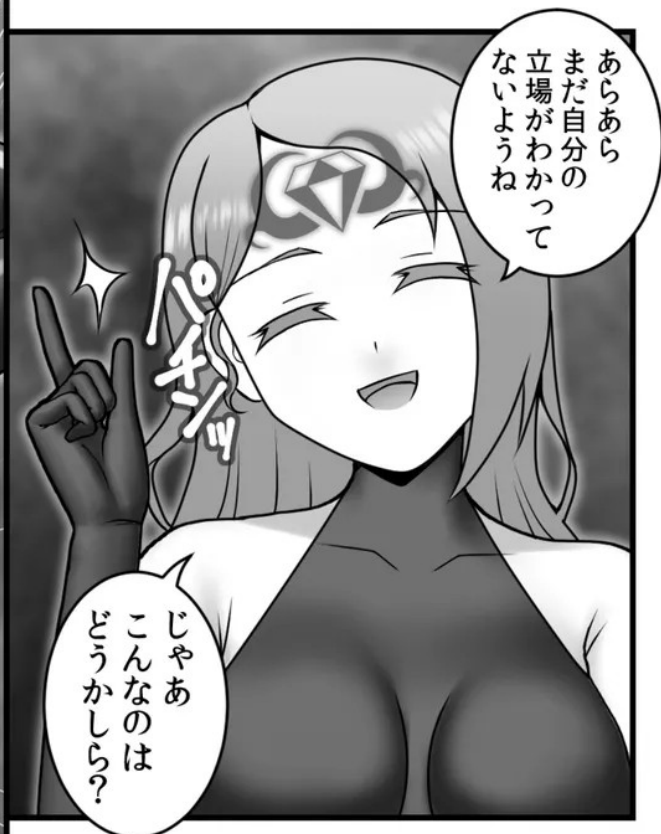
言ったでしょ
すべてわたしの
思うがままだって

それに
こんなことも
できるのよ

パァァァ

サッ







それから
身体を操られ
ただミドリコ先輩に
されるがまま……

くッ!

うふふ
抵抗しても
無駄よ

はあッ!!



あんッ!

あきらめなさい
アカリ

ああッ!!

必死の抵抗とは
裏腹に身体は
言うことを
聞かない



もうあなたは
この快樂に
抗う術はないの

そんなわたしを
あざ笑うかのように
指を鳴らされ



うあああッ!!

強制的に
絶頂させられる



次第に身体は
どんどん快楽に
順応していき



だめ……
こんなの……
快楽に流されて
しまう……

ああああッ!!

このままじゃ
いずれ
心さえも……



ここは
あなたの
精神世界……

心の反応が
身体に影響を
与えたの

自分は
小さくて
弱い存在
だってね……

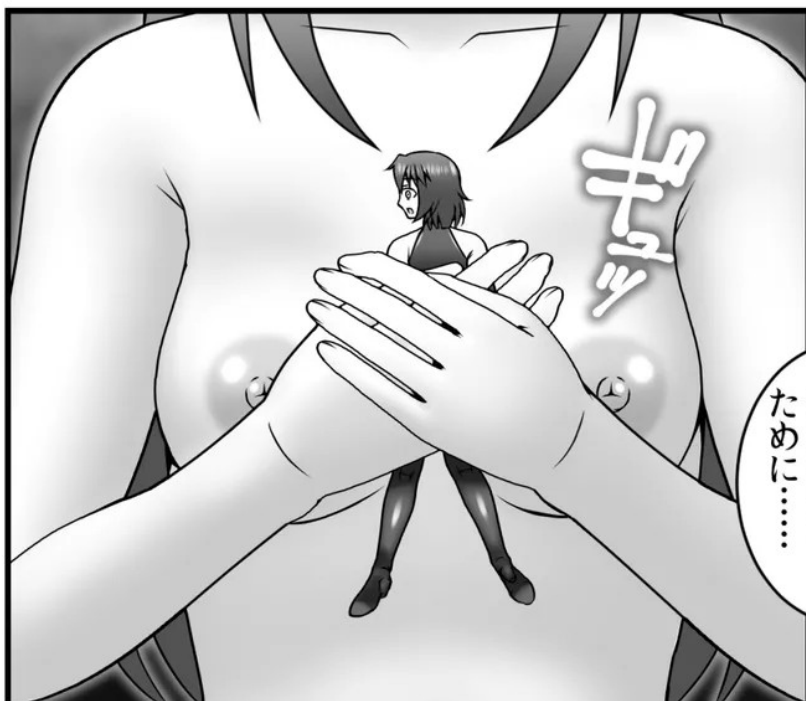
わたしは
弱い存在……

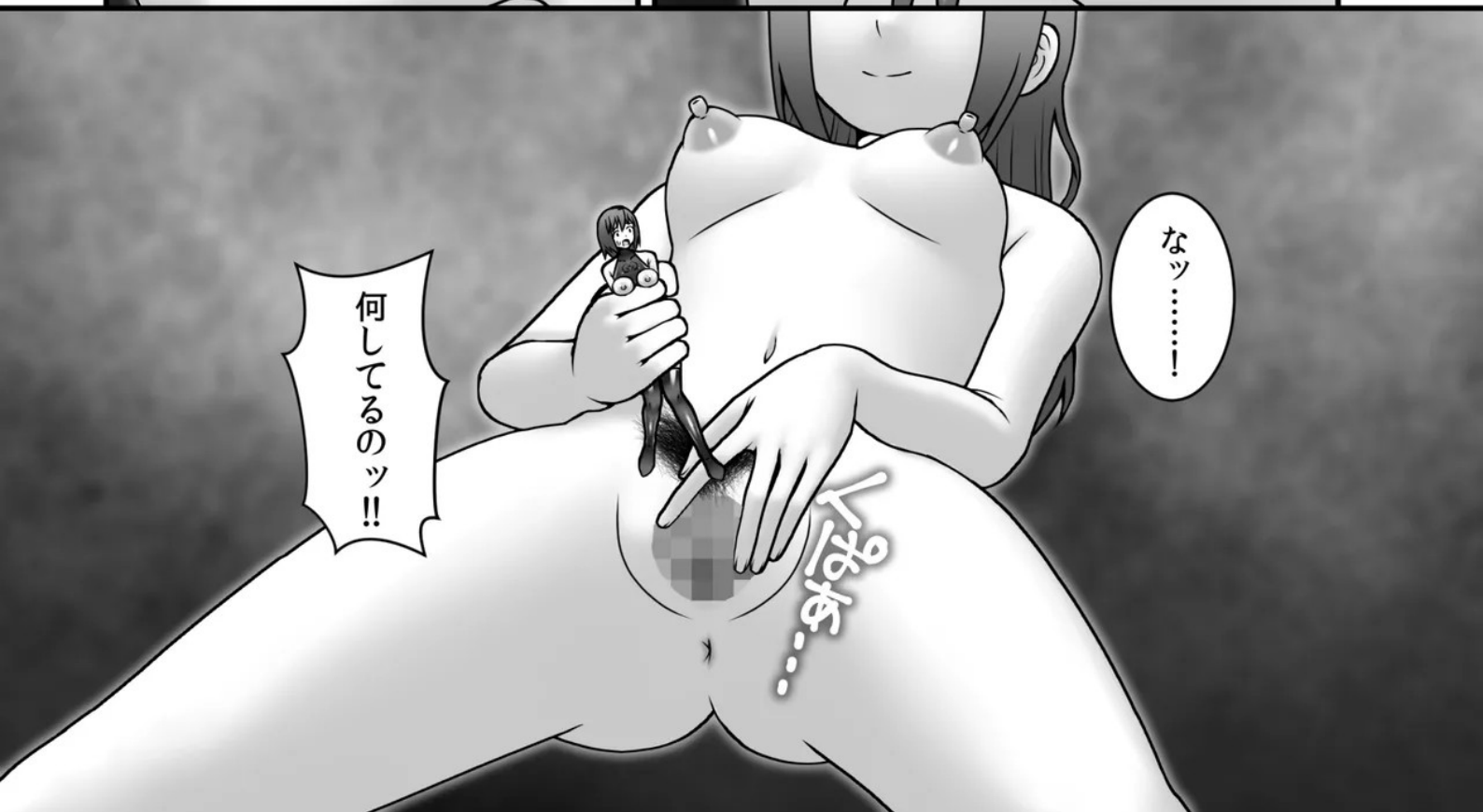
1/4……

顔を
上げなさい
アカリ

え……？

お母さん……？





あ……
お母さんの
膣内に
飲み込まれ……

ひとつに
なりましょう

私の膣内に
来て……

さあ
アカリ……

ガッ

お母……
さ……

あつ……
あッ……

ズズ

ひっ……

ガッ

ズズ

だめ……
ここから
出ないと……

出ないと
いけないのに……

お母さんの膣内
あたたかくて
安心する……

気持ちよくて
抵抗する力が
湧いてこない……

わたし……
お母さんと一緒に
いられるのなら

もう……

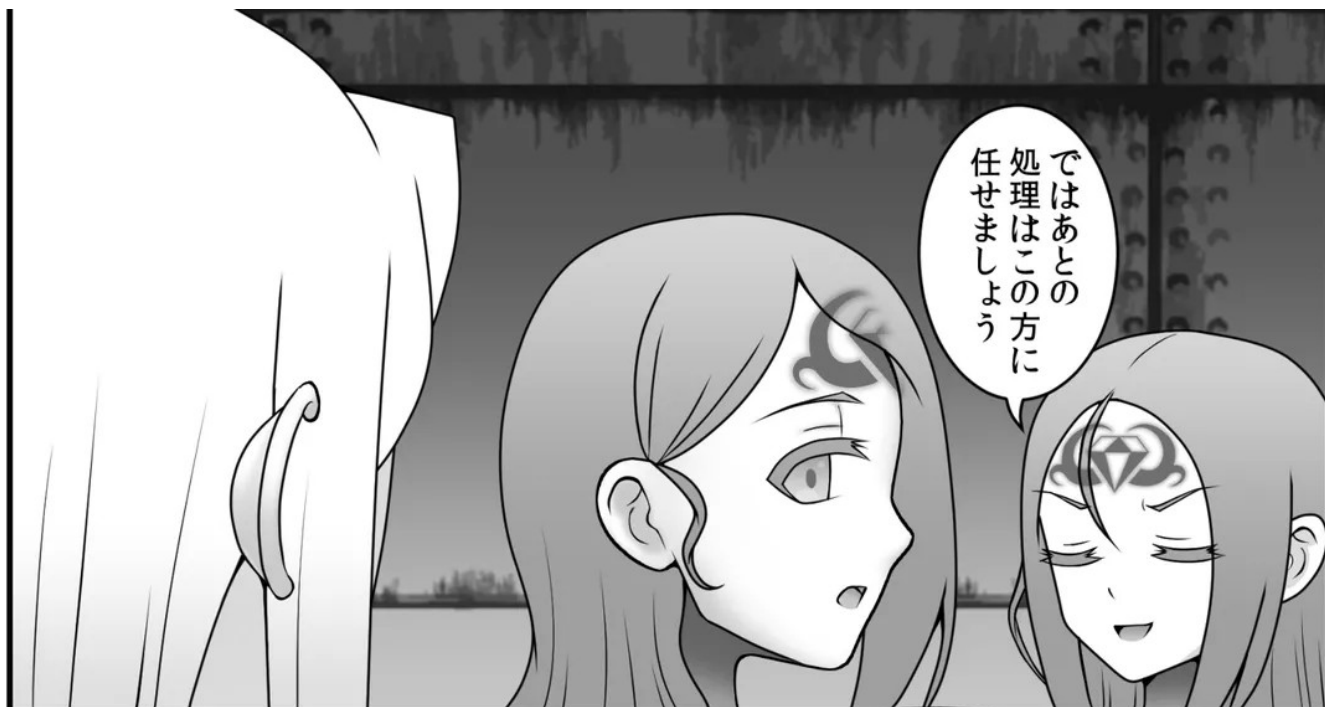
終わったのですね
ミドリ先輩

ええ……

アカリの
心は完全に
折れたわ

もう
戦う必要も
ないでしょう

……



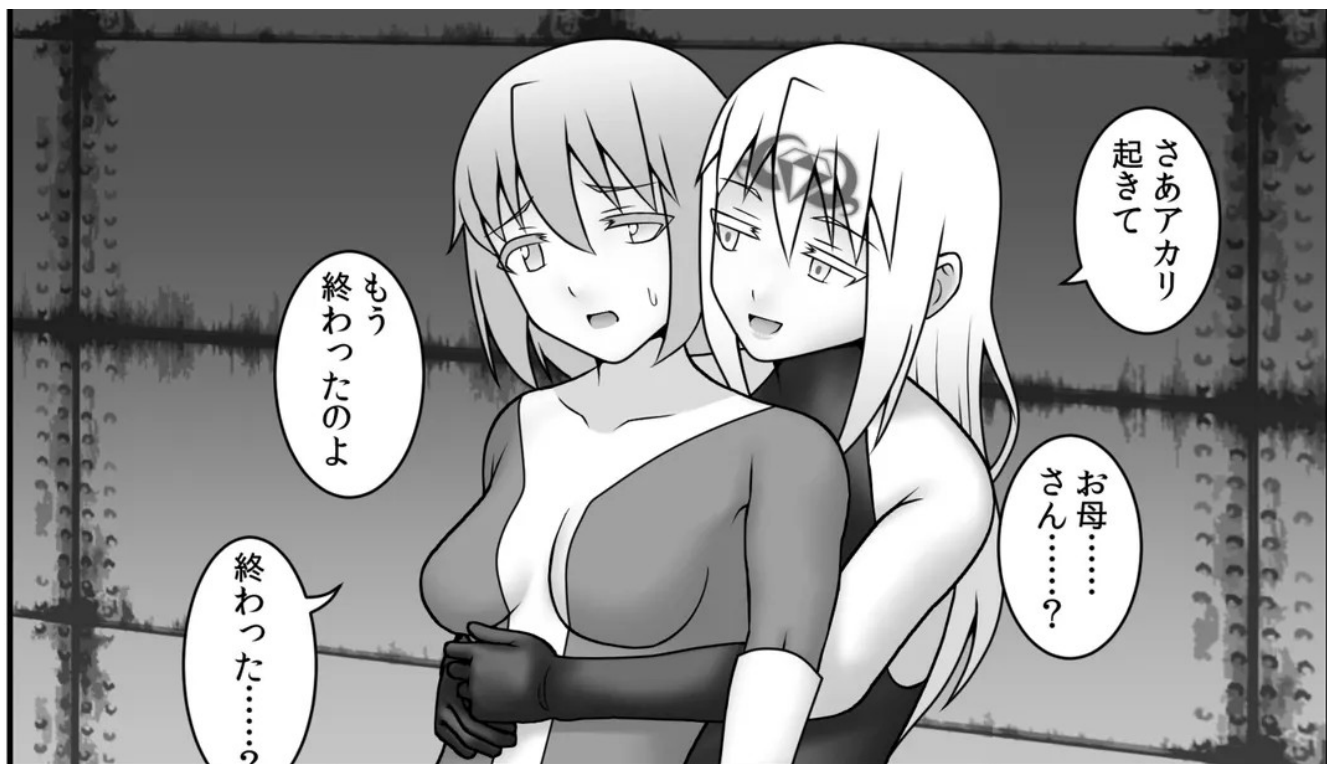
ではあとの
処理はこの方に
任せましょう



アカネ司令
いえ……

黒き戦闘員
アカネ

はッ！
お任せください
シオン様



さあアカリ
起きて

お母……
さん……？

もう
終わったのよ

終わった……？



私たちは
負けたの……

黒きダイヤにね

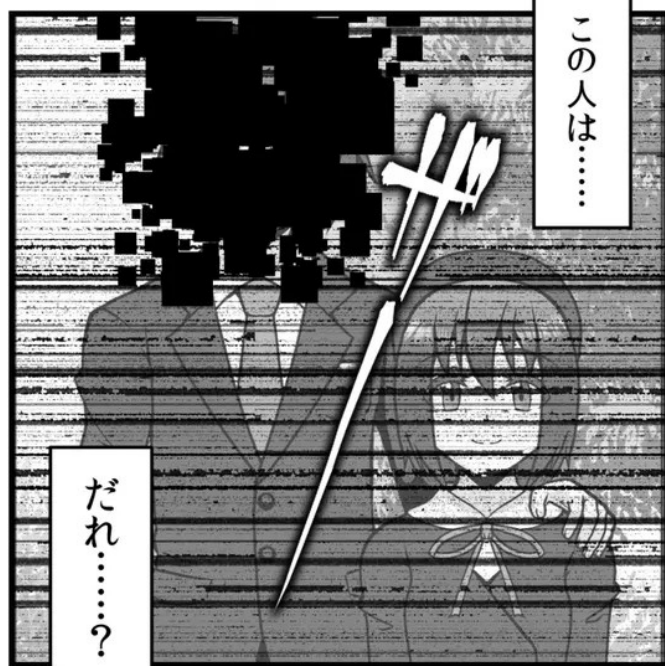
あッ!!



でもアカリも
わかった
でしょう？

快楽に身を
委ねることが
こんなに幸せな
ことだって……

だめ……
抵抗……
できない……



この人は……

だれ……？



あれ？
わたし……

何のために
戦ってたんだっけ？



さあアカリ
ヴァジナスーツを
解除して

そして
黒きダイヤに
ヴァジナベルトを
捧げましょう

ヴァジナベルトを
捧げる……？



そうすれば
私たちは
ずっと一緒に
いられるの

ずっと
一緒に……

お母さんと
ずっと一緒に
いられるのなら……

オッ
ッ
ッ

もう何も
いない……

オ
ッ
ッ
ッ



これで
アカリも
終わったわね

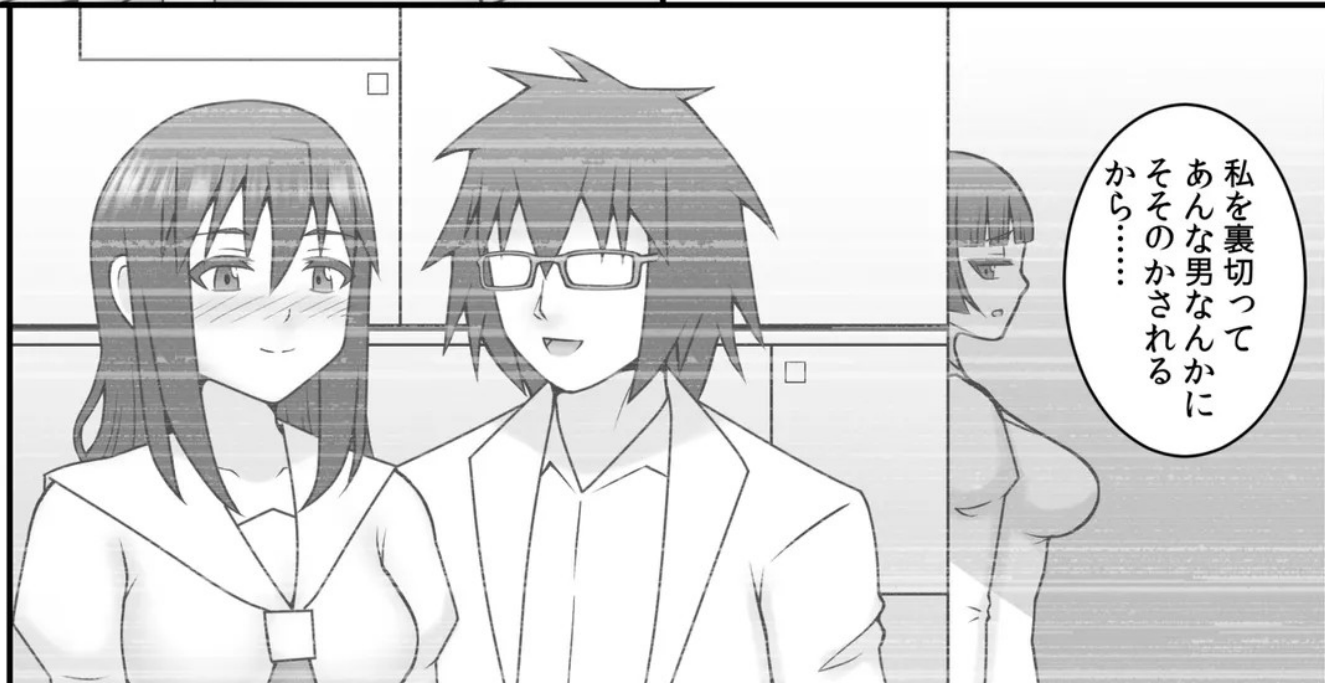
うふふ……



私たちは
誰よりも
愛し合っ
ていたの……



アカネ
あなたが
悪いのよ



私を裏切っ
てあんな男
なんか
にそその
かされる
から……



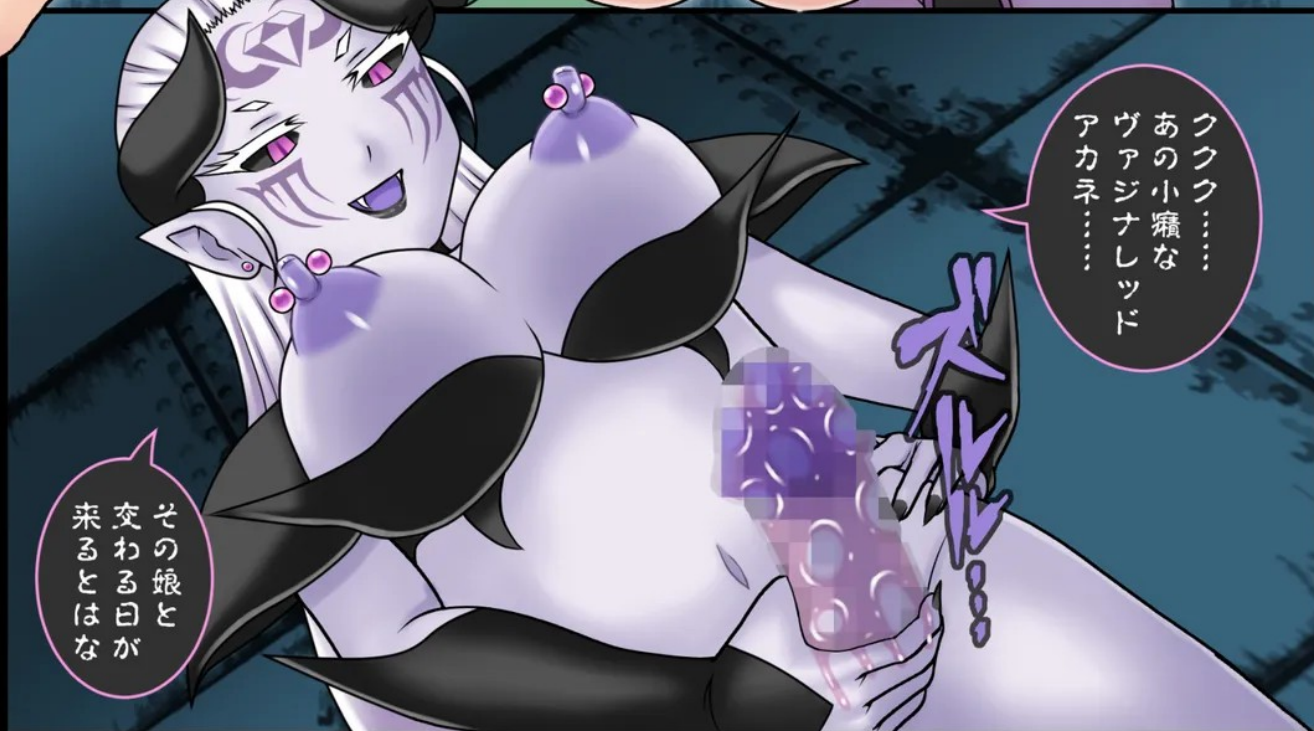






ふむ……
良い獲物も
いることじゃ

さっそく
この身体が
どれほどのものか
試してみるかのう



ククク……
あの小癪な
ヴァジナレッド
アカネ……

その娘と
交わる日が
来るとはな



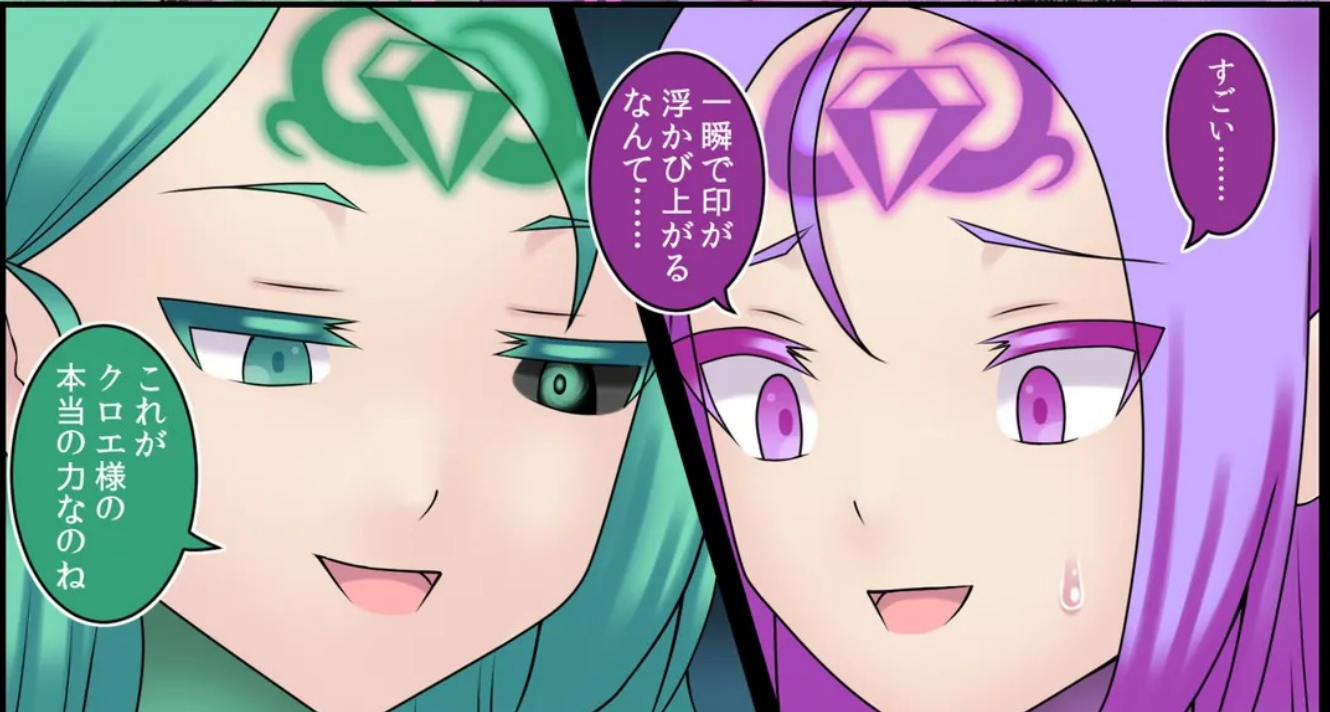
存分に
受けるがよい

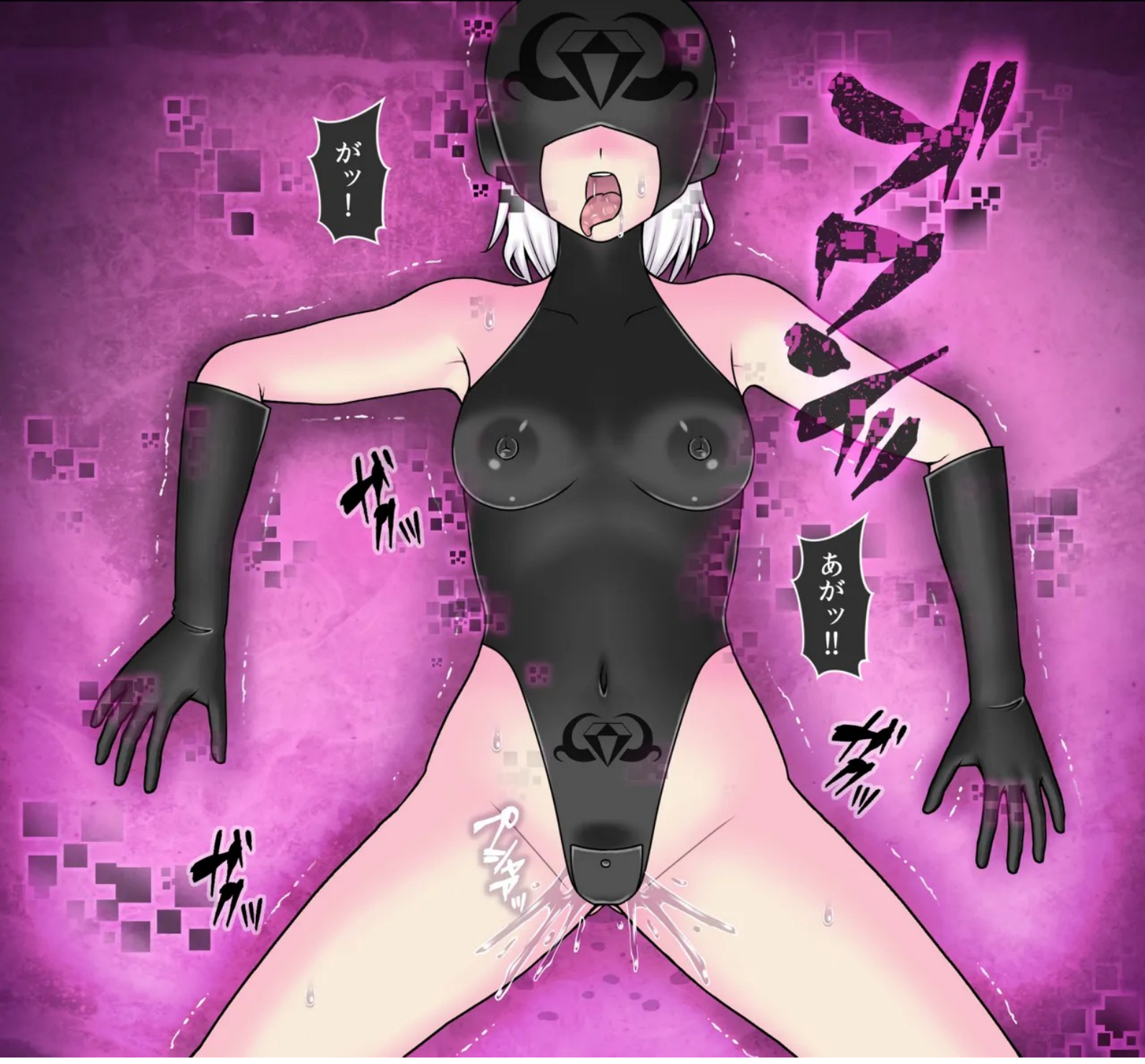
ヒッ!



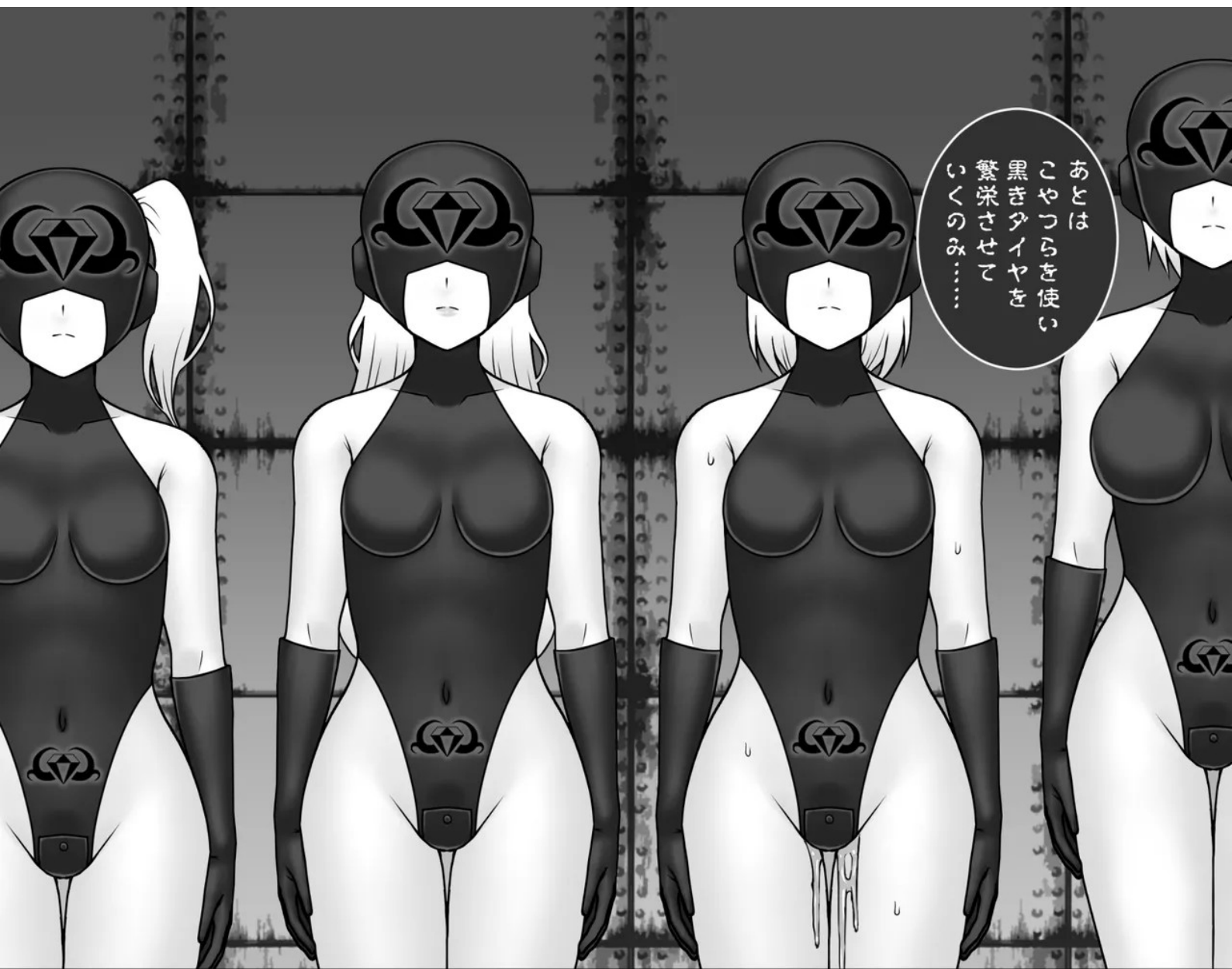
親子で
わらわに
齒向かった
罪……

イッ!









あとは
こやつらを使い
黒きダイヤを
繁栄させて
いくのみ……



今度こそ
わらわが
この世界を
支配して
くれようぞ

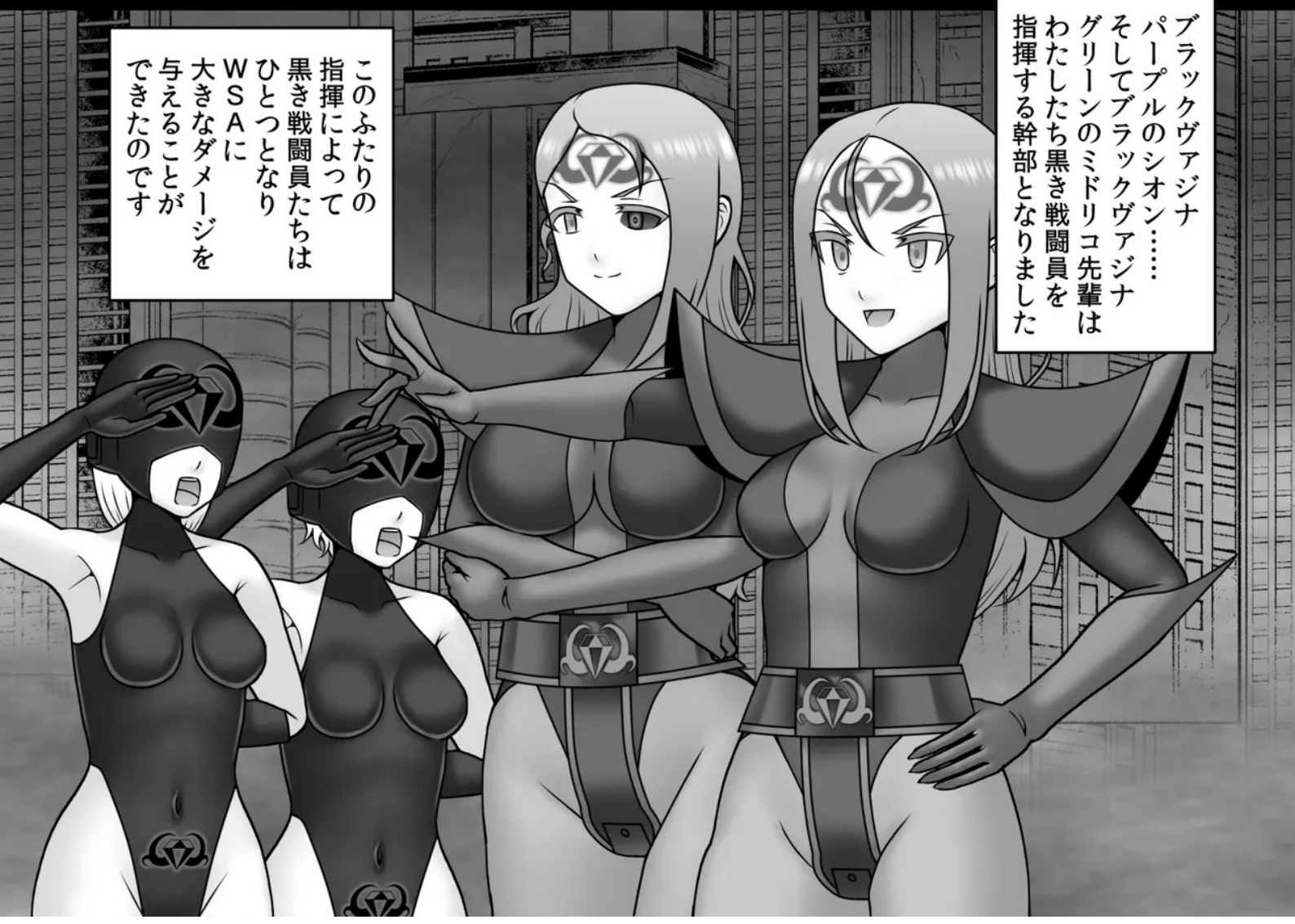
フハハハハッ！

それから世界が
黒に染まるのに
そう時間は
かかりませんでした……



その後
黒きダイヤは
WSAに総攻撃を
仕掛けました

そこでは
黒き戦闘員の
アオイ先輩が
先頭に立ち
活躍したといいます



ブラックヴァジナ
パープルのシオン……
そしてブラックヴァジナ
グリーンのミドリコ先輩は
わたしたち黒き戦闘員を
指揮する幹部となりました

このふたりの
指揮によって
黒き戦闘員たちは
ひとつとなり
WSAに
大きなダメージを
与えることが
できたのです



キリノは
ミコク様の
従順な部下として
黒き獣を従え
実験体となる
ヴァジナ隊員を
捕らえ連れ帰って
いるようです



そして
ヴァジナ隊員たちを
ブラックゲノム
ヴィラネスに
生まれ変わらせ
その数を増やし
続けているのです



そして私たちの
仲間になり
クロエ様のために
生きるのです



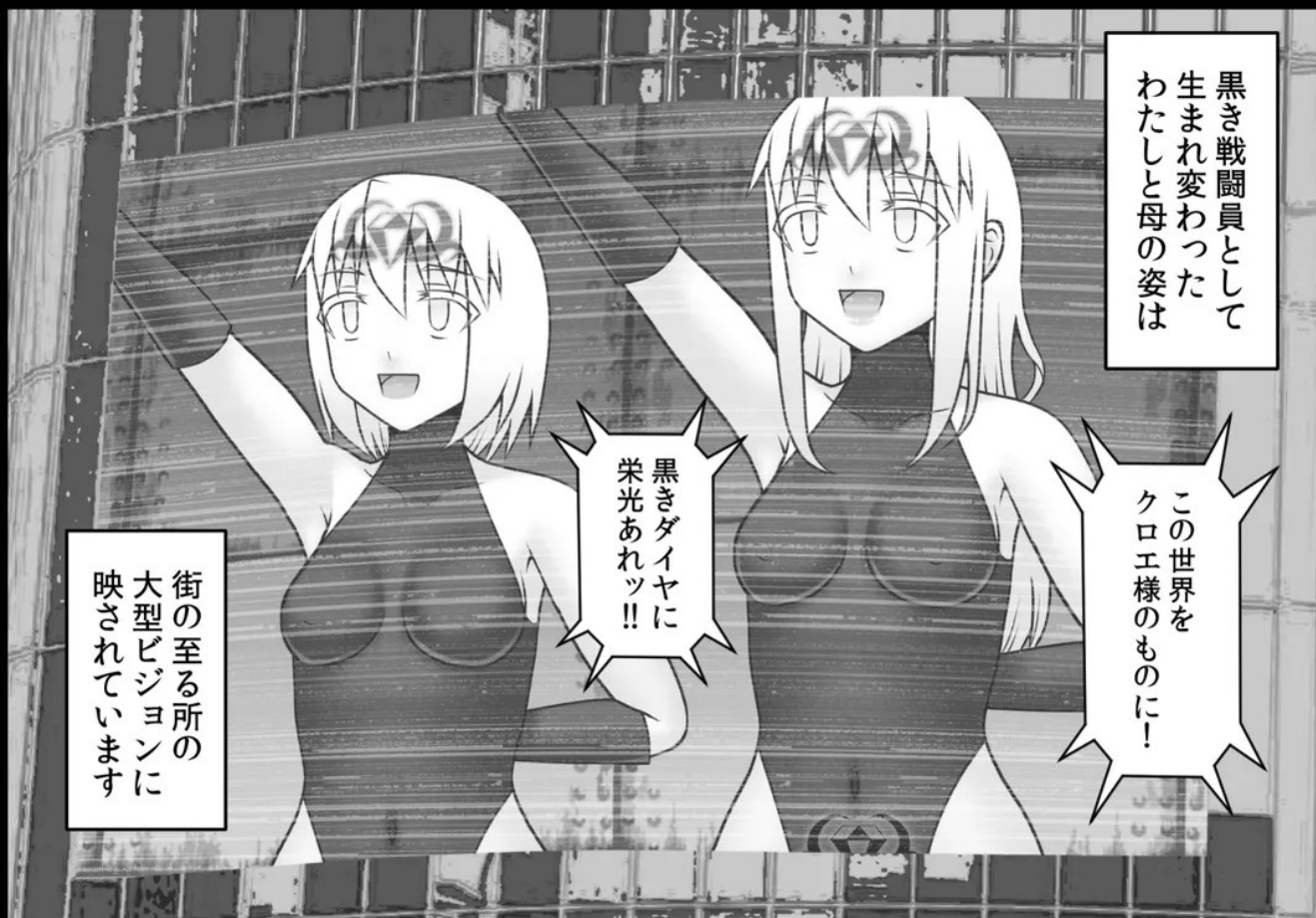
それが私たちの
喜びであり
幸せなのです



そして
わたしは……

W S A の
ヴァジナ隊員の
みなさん

無駄な抵抗はやめ
黒きダイヤに
投降しましょう



黒き戦闘員として
生まれ変わった
わたしと母の姿は

この世界を
クロエ様のものに！

黒きダイヤに
栄光あれッ!!

街の至る所の
大型ビジョンに
映されています

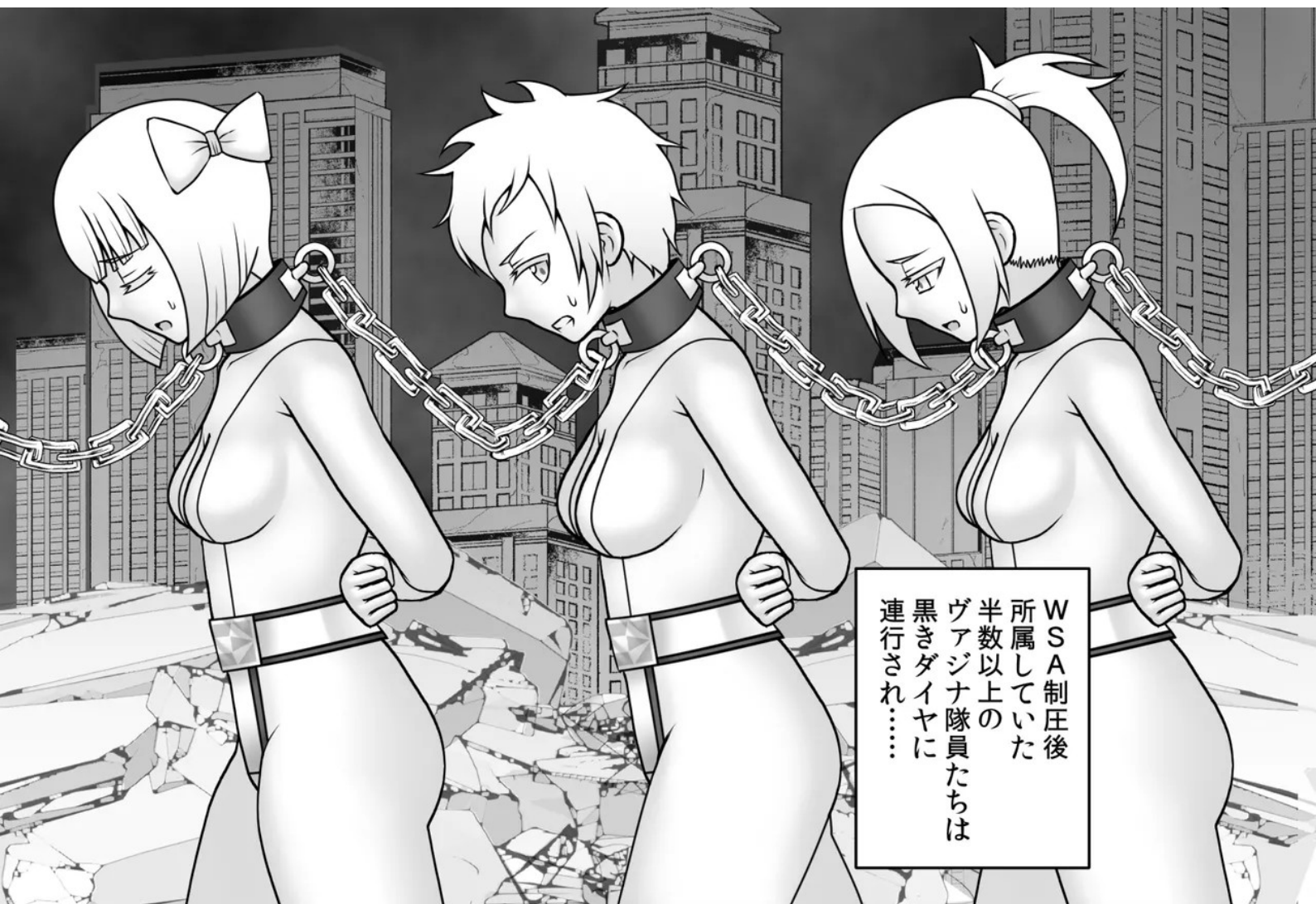
WSAの
英雄であつた
わたしたちの
その惨めな姿に

数多くの
ヴァジナ隊員たちが
心を折られたと
います

そして
ヴァジナカラーズを
失つたWSAには
抵抗する力はなく

瞬く間に
黒きダイヤの一員に
生まれ変わった
わたしたちの
手によって
制圧されたのです

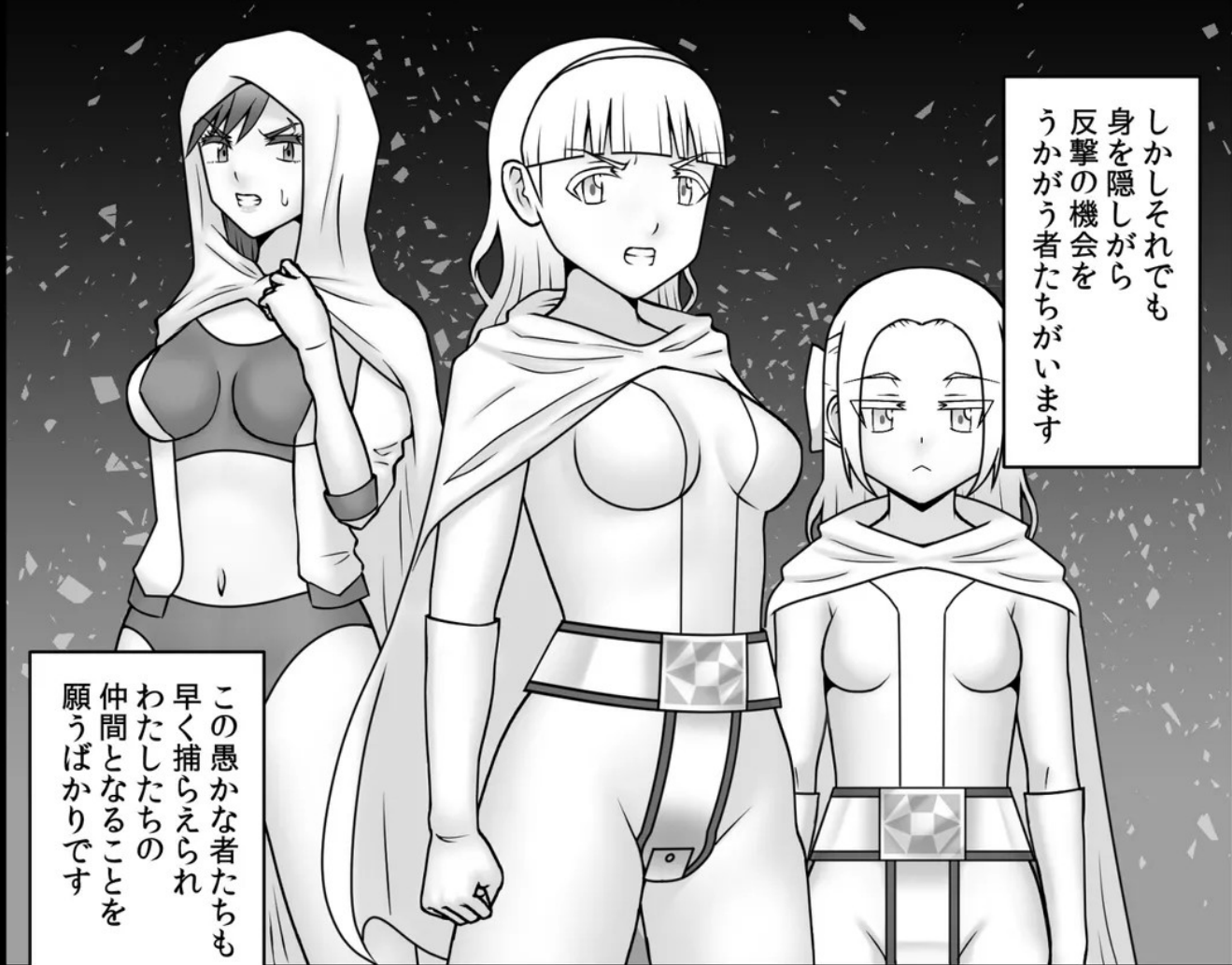




WSA制圧後
所属していた
半数以上の
ヴァジナ隊員たちは
黒きダイヤに
連行され……



その姿を
わたしたちと
同じように
黒き戦闘員へと
変えました

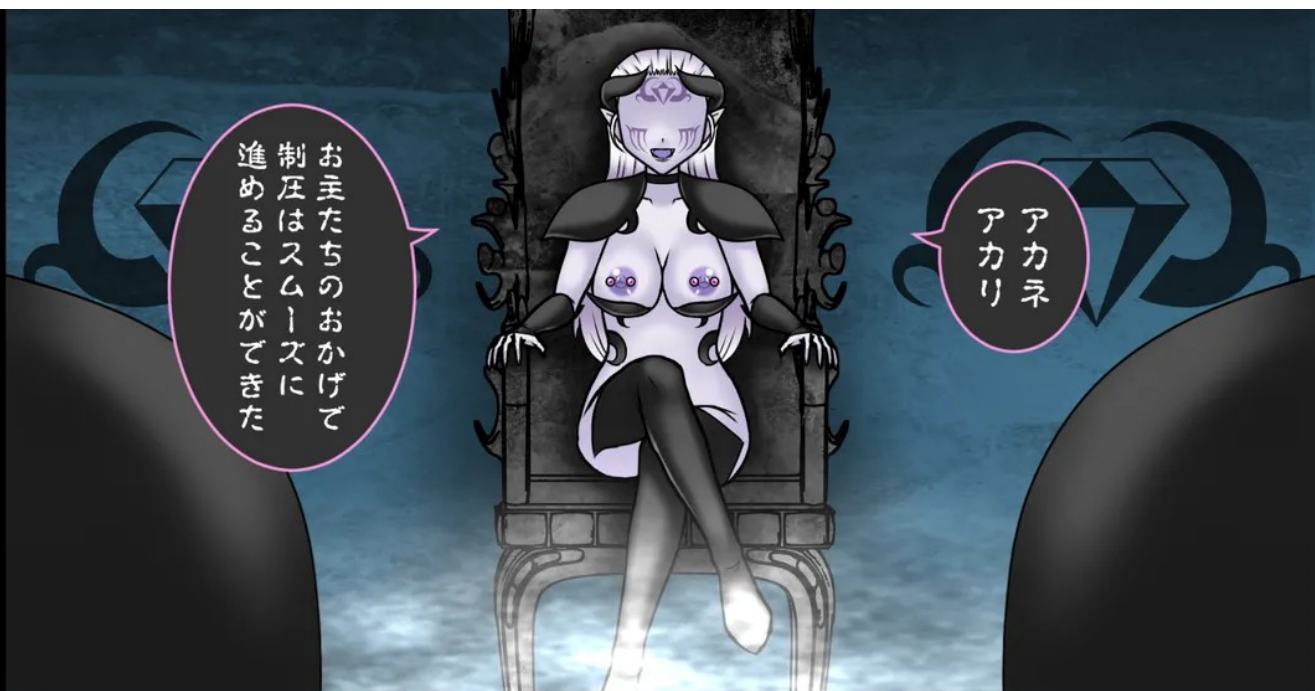


しかしそれでも
身を隠しながら
反撃の機会を
うかがう者たちがいます

この愚かな者たちも
早く捕らえられ
わたしたちの
仲間となることを
願うばかりです



そして世界は
女王クロエ様率いる
黒きダイヤの支配下
に置かれることと
なったのです……



お主たちのおかげで
制圧はスムーズに
進めることができた

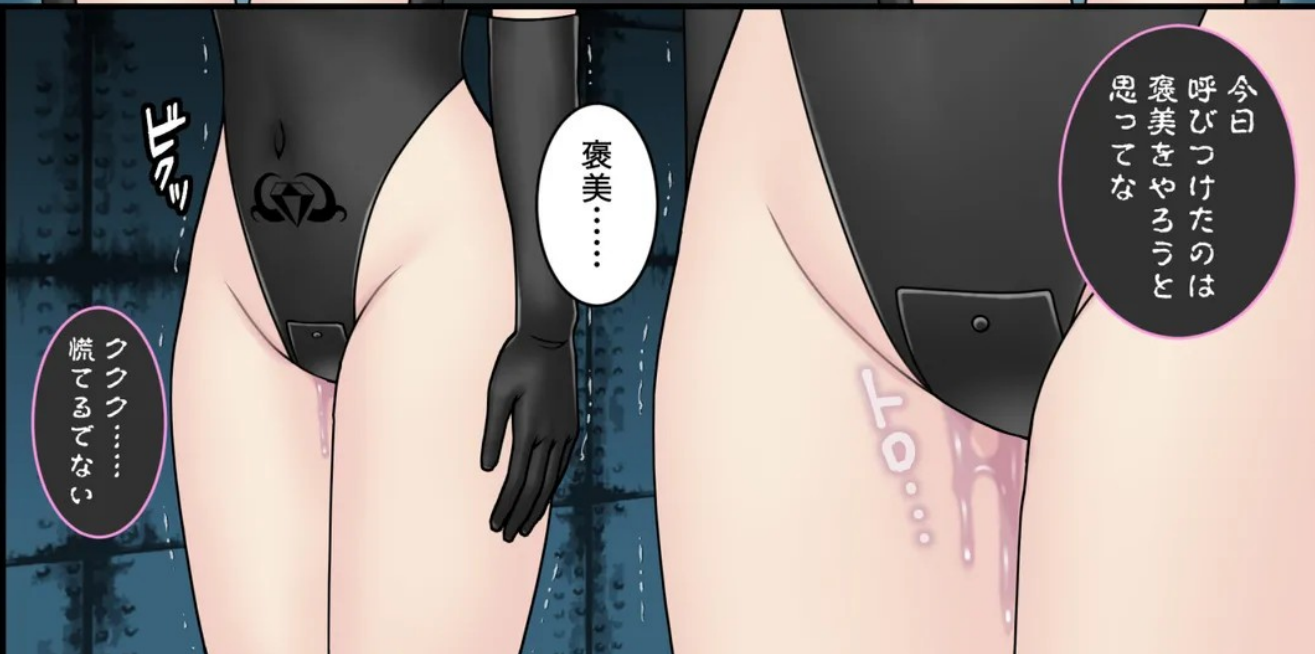
アカネ
アカリ



さすが
世界の希望であった
ヴァジナレッドじゃ

ありがとうございます
ございます

クロエ女王様
のお役に立てて
光栄です



今日
呼びつけたのは
褒美をやるうと
思ってたな

褒美……

ククク……
慌てるでない



アカリよ……



何も言わずとも
お主の希望は
わかっておる



身体が……

わたしの
身体が
溶けていく……



わたしが
わたしじゃ
なくなって……

あッ……



んんんんんッ!!



コト...

ククク……
見事に玩具と
成り果てたな
アカリよ

さあアカネ
存分に
可愛がって
やるがよい

はッ！
ありがとうございます
クロエ様



ああ……
アカリ
こんな姿に
なつて……

とても
いやらしくて
素敵よ

ぴんぽん
てんてん

さあ
私の膣内で
ひとつに
なりましょう

私たちは
ずっと一緒よ

あかりいいいいツツ!!

こうして
わたしの戦いは
幕を閉じました

わたしはいま
満たされた
幸せな毎日を
送っています

この世界を
クロエ様のものに！

黒きダイヤに
栄光あれッ!!

こんな幸せを
与えてくれた
クロエ様には
感謝しても
しきれません

これからも
ずっとこの幸せを
感じながら
存在できればと
そう願っています

お母さんの
膣内で……

終

貞操戦隊 ヴァジナカレース

最終話

制作：IceLee / STUDIO HP+

Twitter：icelee_i3

pixiv：63625

Mail：i3-hpplus@infoseek.jp

HP：<http://studiohpplus.sakura.ne.jp/>

未成年者の購読・閲覧を禁じます。
無断複製・転載・アップロードを禁じます。

ヴァジナレッド・アカリの能力



ヴァジナレッド・アカリの能力は瞬速。
目にもとまらぬ速さで攻撃を行う。
攻撃の度にどんどん加速し攻撃力も増していく。



第一話でアカリがシオンを助けるシーンも
この瞬速能力を使っている。

ちなみにアカリは蹴り技を得意としている。

アカリの父親



アカリの父親はアカネと結婚前から
WSAでヴァジナベルトの研究をしていた。
ほとんど女性職員のWSAで男性が勤めるのは
異例でそれほど研究員としての才能があった。

暗殺されたのはヴァジナベルトの秘密を
握っていたという噂も……

アカネとハルカの関係



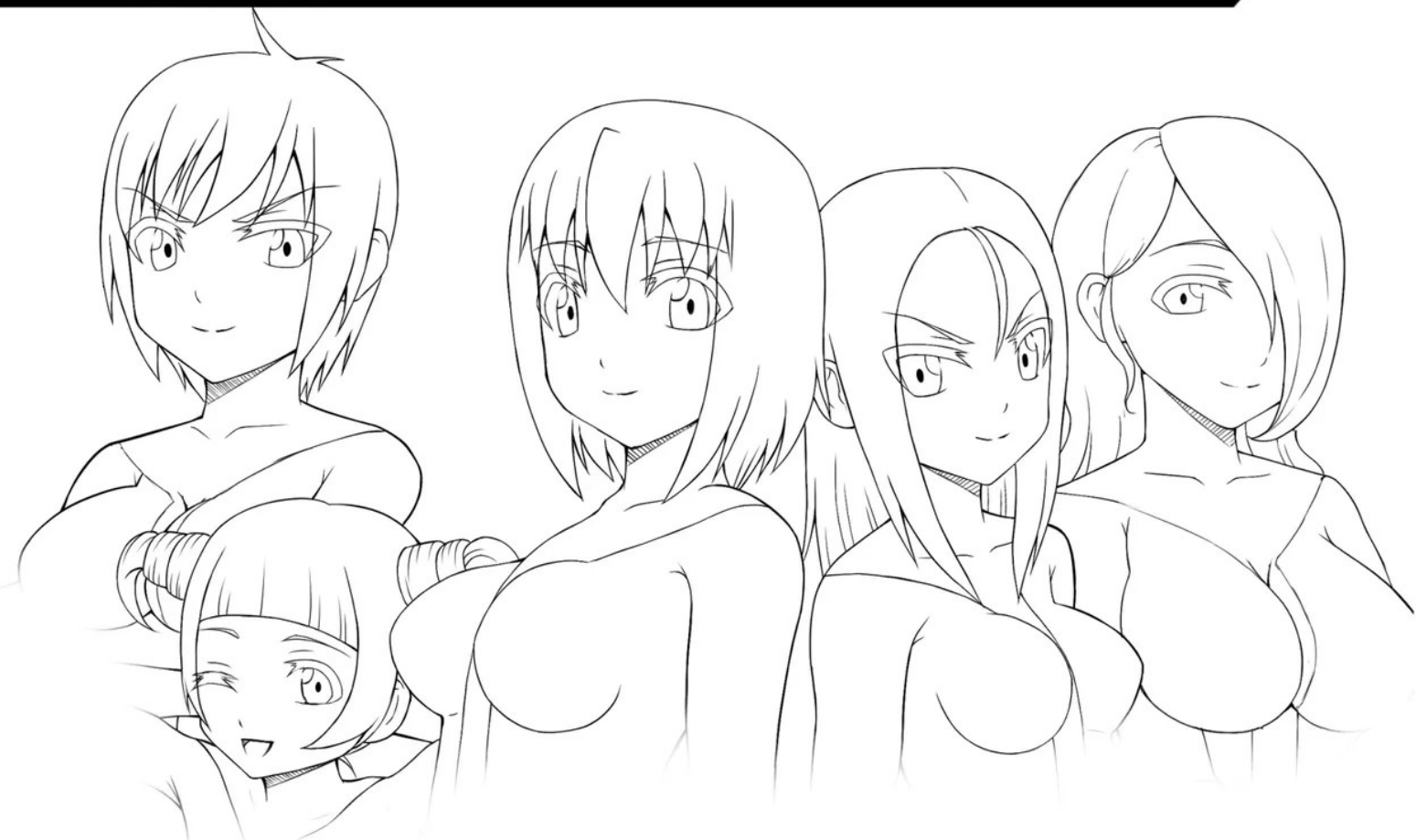
アカネとハルカはヴァジナ隊員時代、恋愛関係にあった。しかしアカネが男性研究員(アカリの父親)に恋をしてしまい関係は終わりを向かえる。

その後もヴァジナレッドとヴァジナブルーとしてふたりは戦い続けるがクロエとの決戦でハルカは犠牲となってしまう……

しかし数年後、ハルカはクロエと一身となり蘇ることに……

このあたりの話はあまりエロシーンもなく話もどんどん複雑になってしまったので一旦ここで最終話とさせていただきました。また何かの機会で描ければと思います。

最後に



「貞操戦隊ヴァジナカラーズ」を読んでいただきありがとうございました！

わたしは
こんなところで
何を……

こんな簡単な
罠に引っかかる
なんて……

貞操戦隊

ヴァンナカローズ
最終話

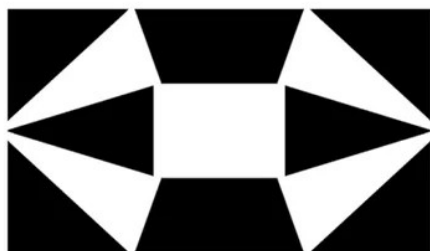
主な登場人物



アカリ
ヴァジナレッド
ヴァジナカラーズ隊長



ヨミ
WSAの戦闘訓練
トレーナー



WSA
(ホワイトサファイアアカデミー)



ヴァジナホワイト
WSA所属の
ヴァジナ隊員



ミオリ
WSAメカニック



アカネ
WSA最高司令官
アカリの母親



スパイとして潜入



キリノ
ブラックゲノム
ヴィラネス



シオン
ブラックヴァジナ
パープル



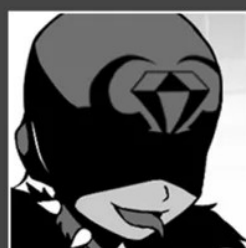
クロエ
黒きダイヤ幹部



ミコク
クロエの従順なる
部下



ミドリコ
ブラックヴァジナ
グリーン



黒き獣
元ヴァジナ隊員



黒き戦闘員
元ヴァジナ隊員



アオイ
元ヴァジナブルー
黒き戦闘員



黒きダイヤ

あらすじ

悪の組織「黒きダイヤ」によって次々と取り込まれてしまうヴァジナカラーズたち……
残るはヴァジナカラーズ隊長のヴァジナレッド・アカリひとりのみとなってしまう。
果たしてアカリは捕らえられた母やヴァジナ隊員、そして世界を救えるのか……



少し頼りないけど
とてもやさしい
お父さん……



物静かで
しつかり者の
お母さん……



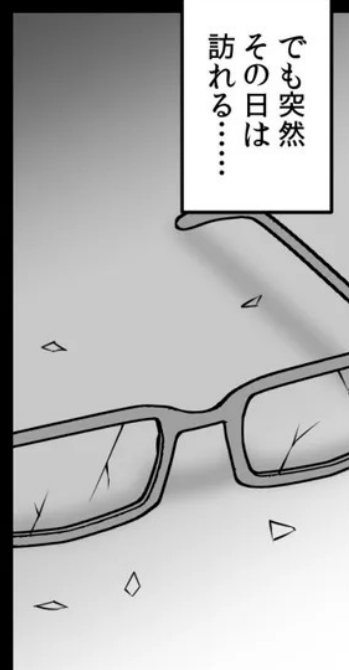
この幸せな時間が
ずっと続くものだ
と
思っていた

わたしは
そんな二人が
大好きだった



WSAの
研究員だった
お父さんが
暗殺されたのだ

黒きダイヤに
よって……



でも突然
その日は
訪れる……



あのとき
わたしは
お母さんと
誓ったんだ……

お願い……

あの人の
仇を
討って……

アカリ……

うんッ！

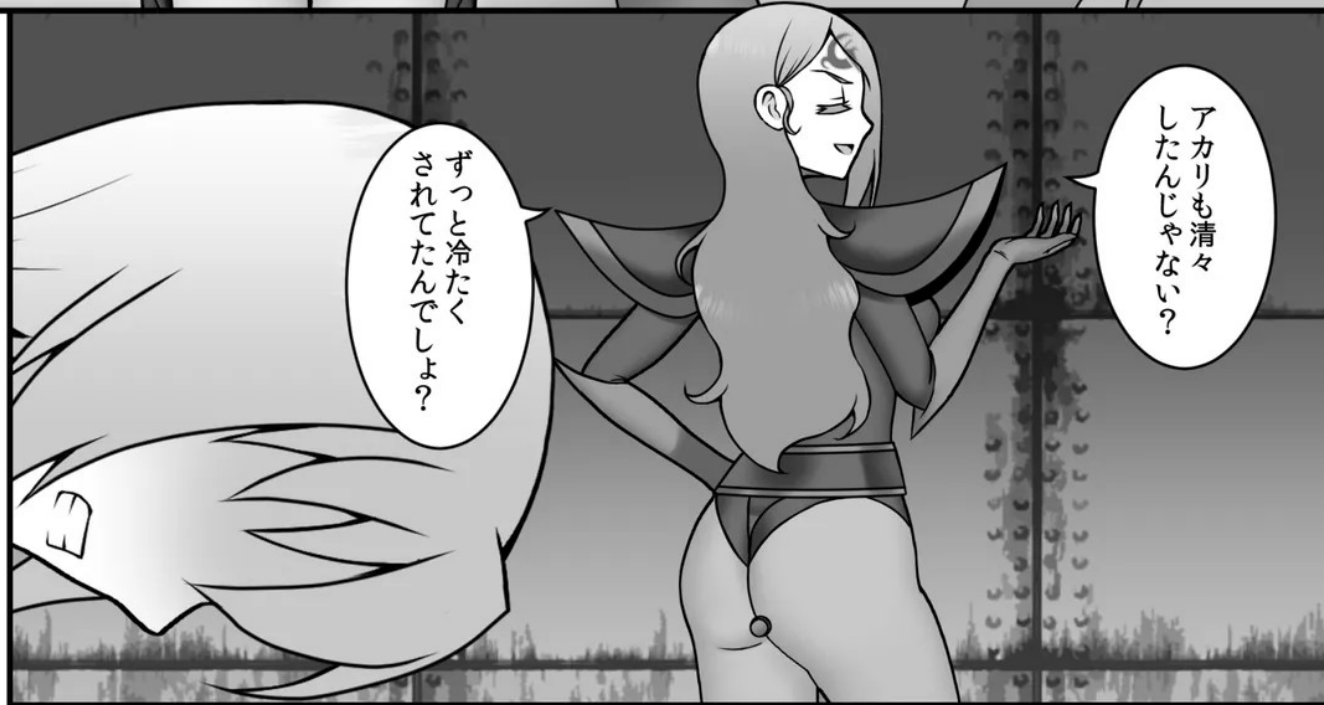
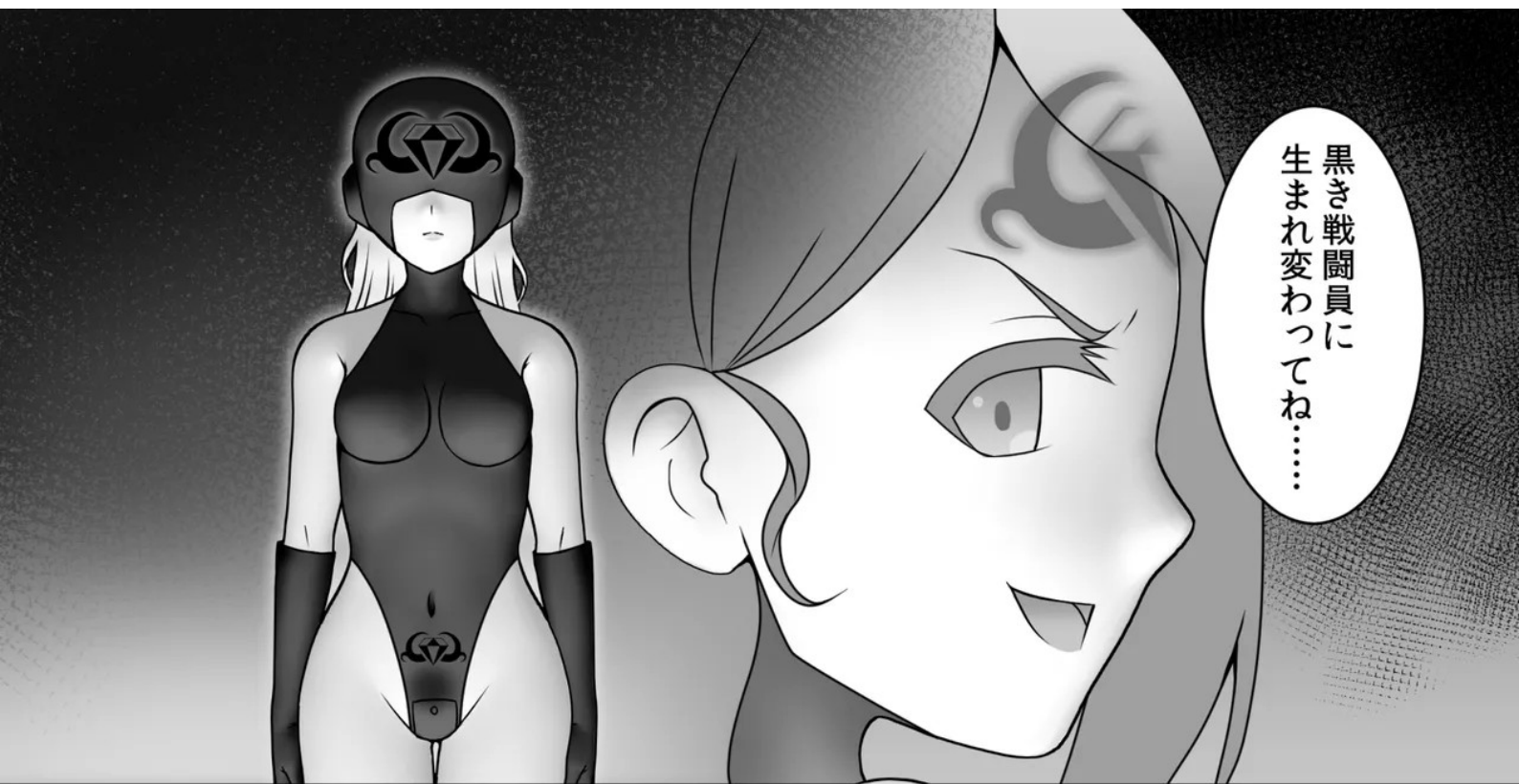
必ずお父さんの
仇を討つって……

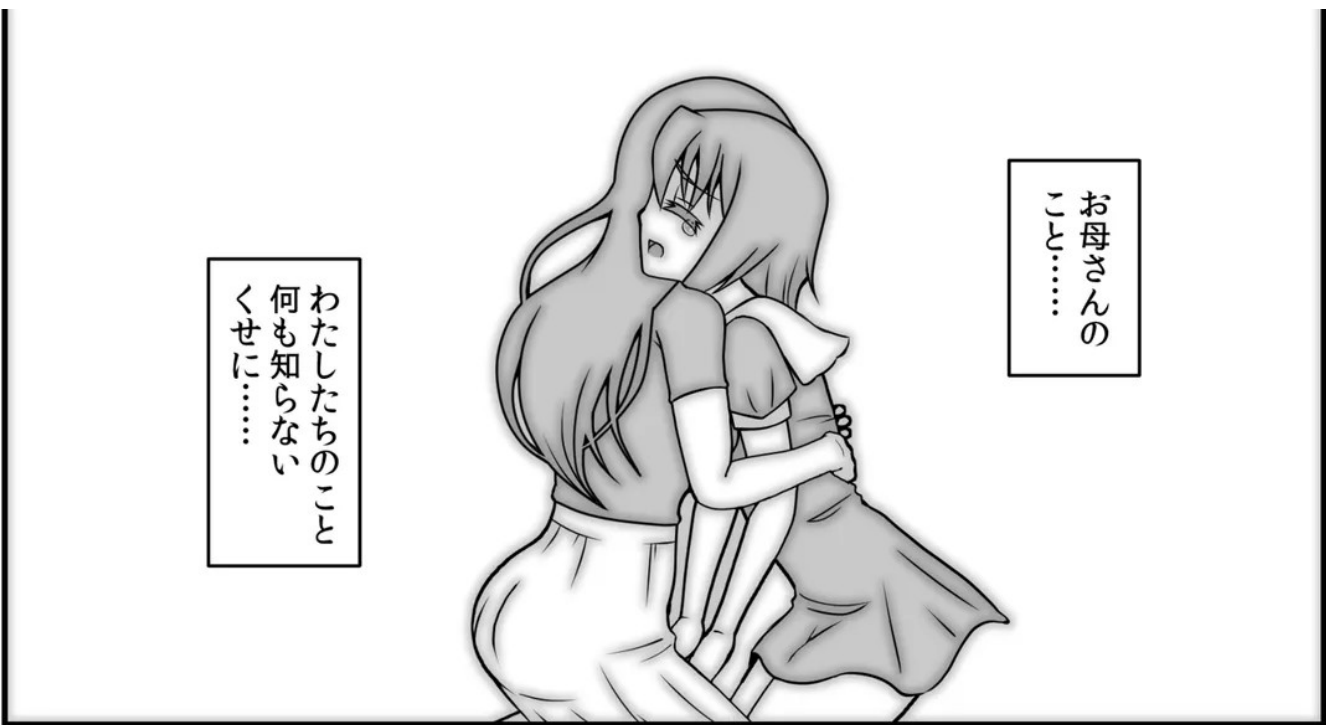
それなのに……

まったく……

本当にバカね
アカリ





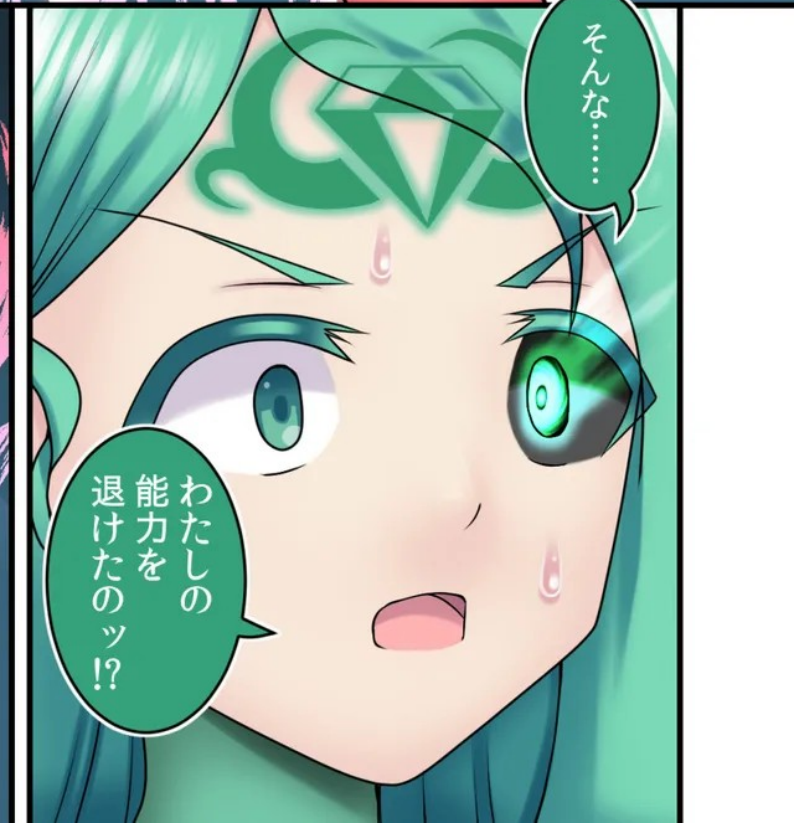




必ず
お父さんの仇を
討つって……



もう誰も
わたしの邪魔は
させない！

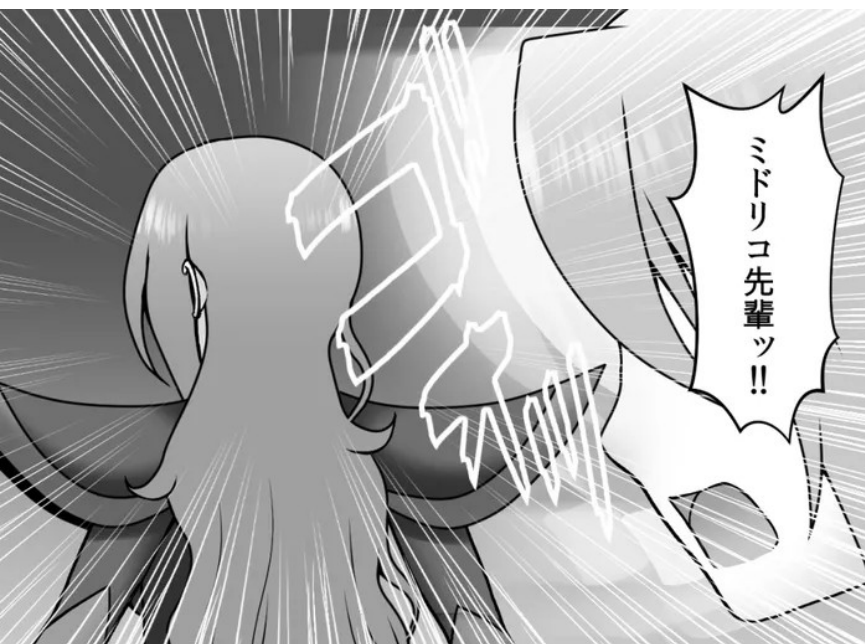


そんな……

わたしの
能力を
退けたのッ！







ミドリコ先輩!!



もう誰も
わたしには
追いつけないッ!

これで
最後です

カツ



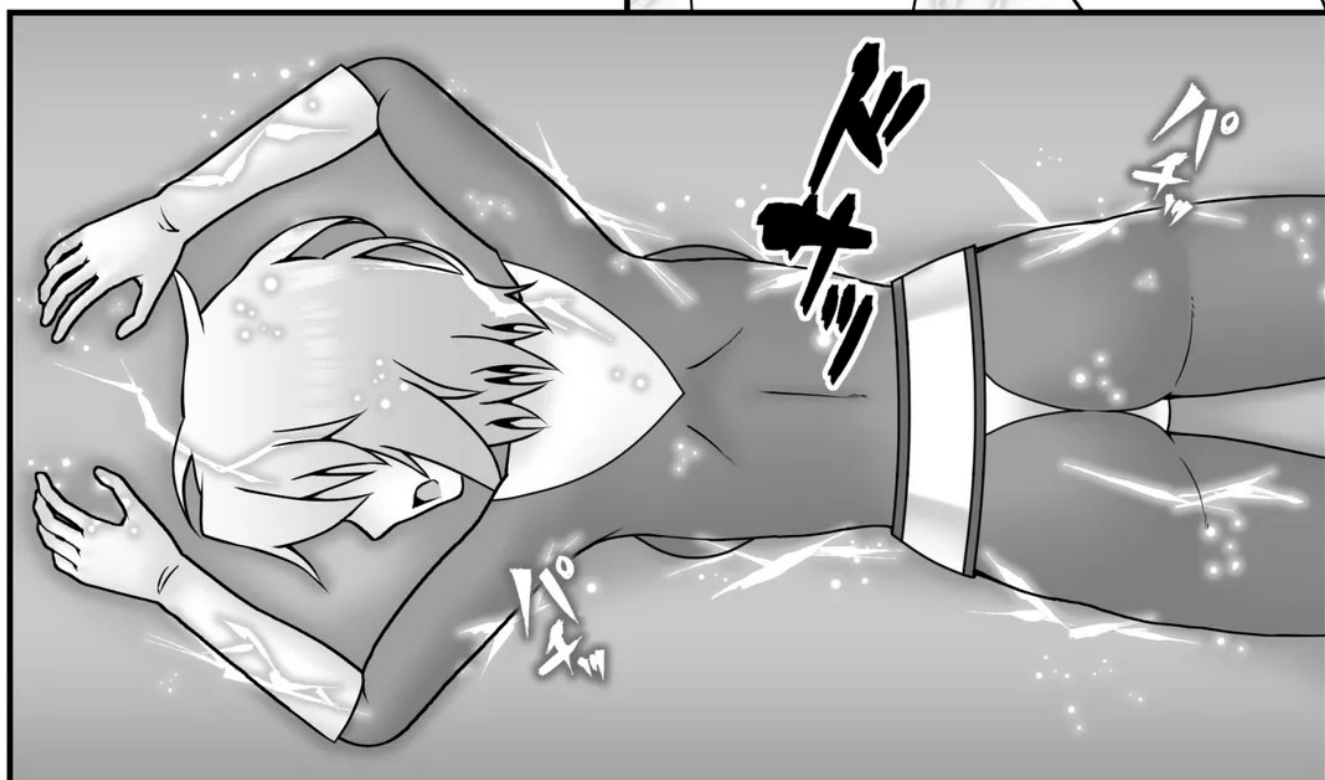
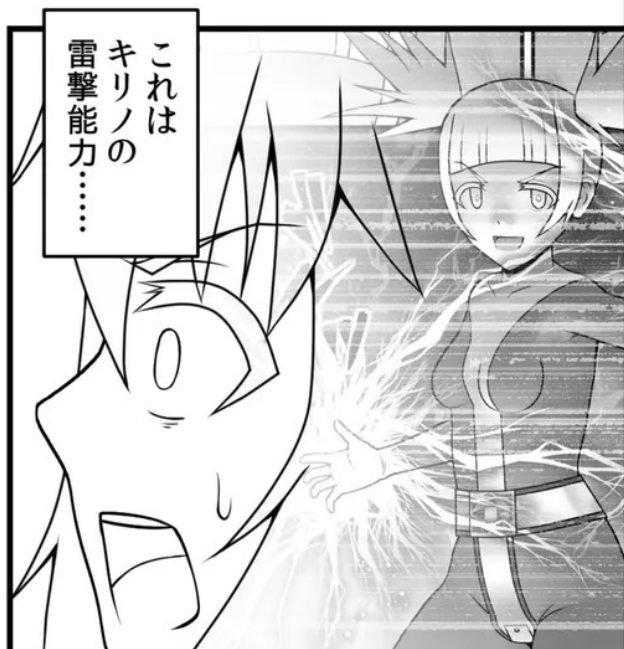
よく耐えて
くれました
ミドリコ先輩

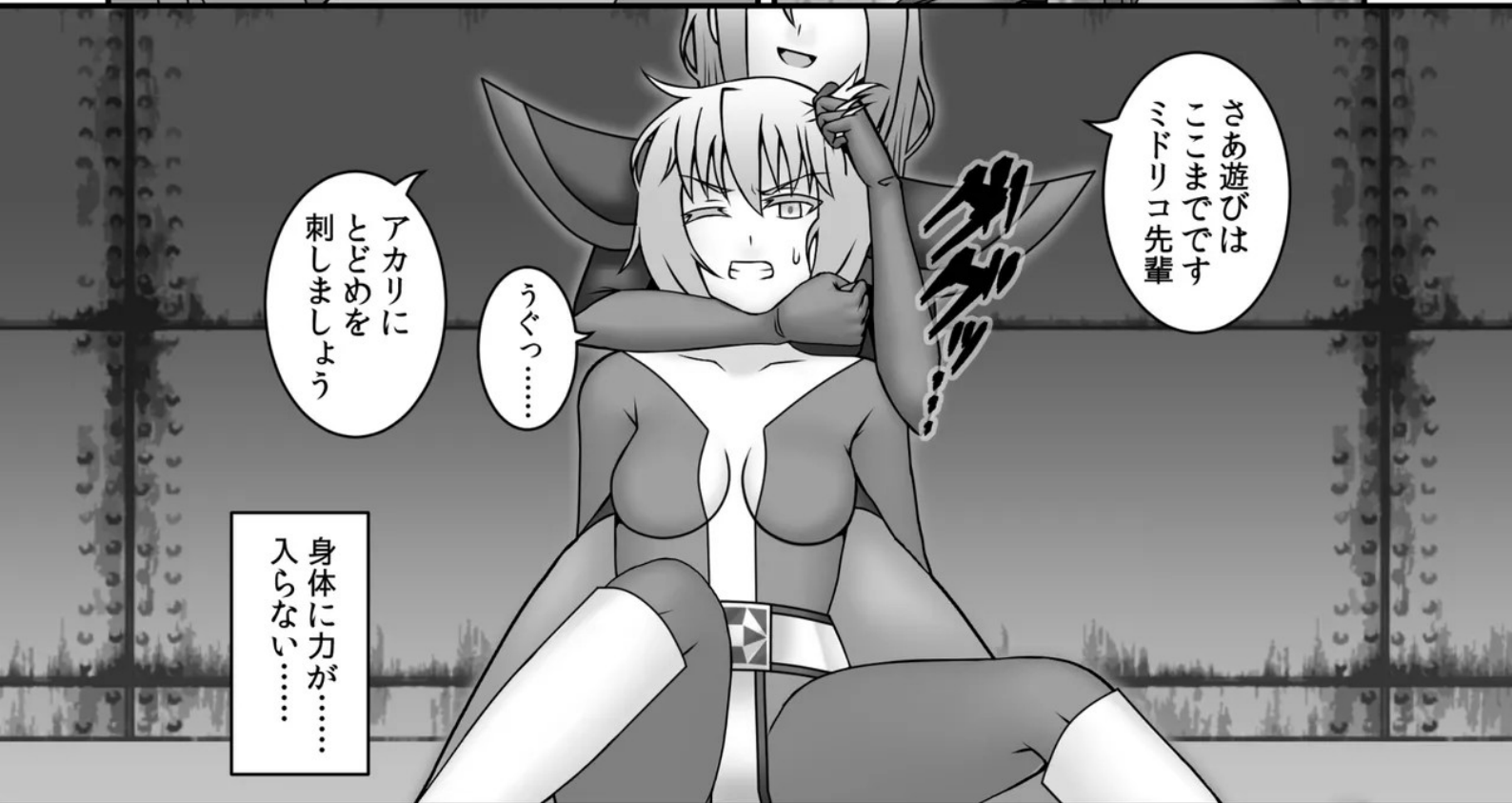
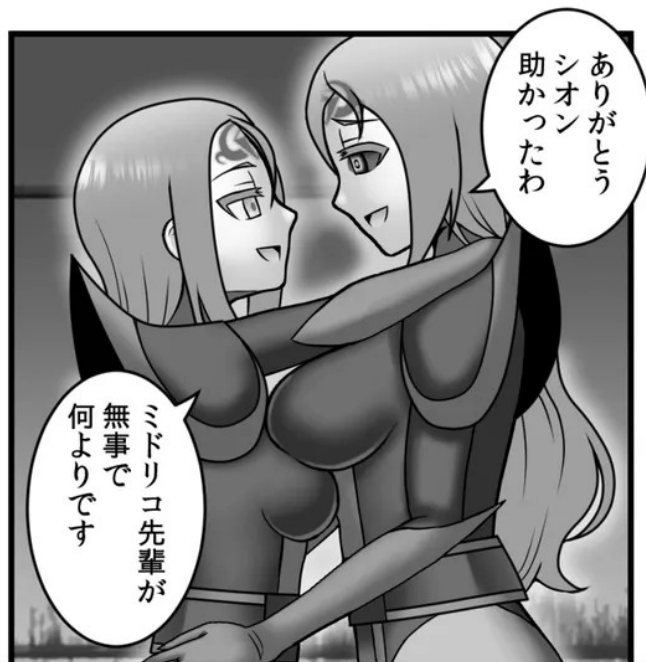
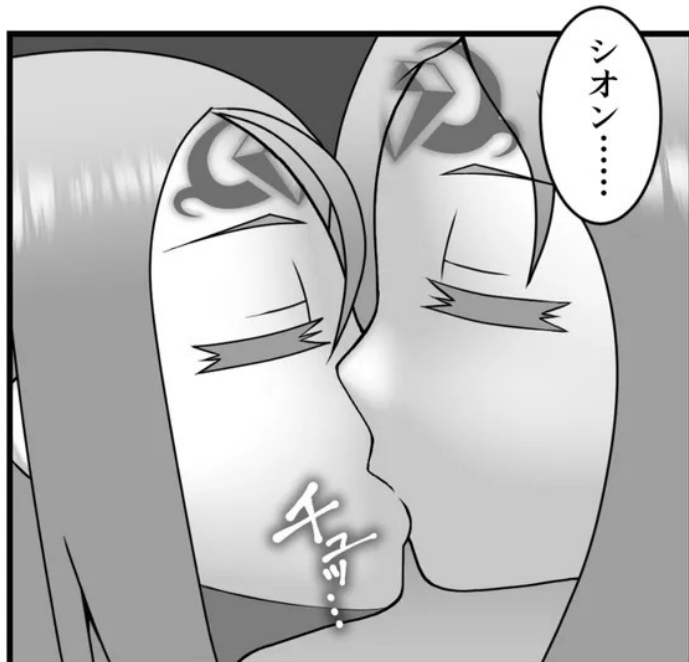
キッ

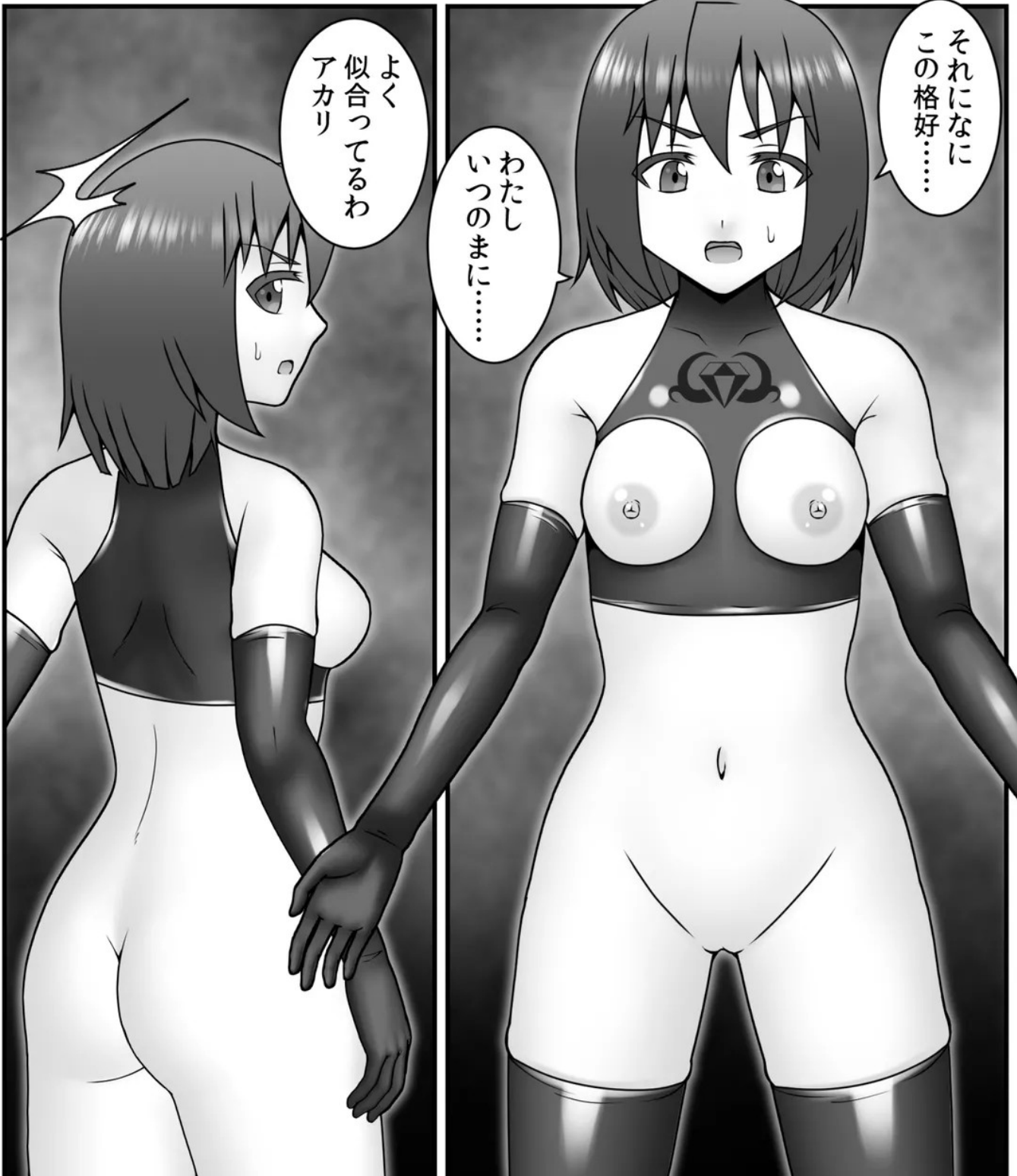
ザ



シオンッ?!









わたしの
精神世界……
本当に……？

また何かの
罠なんじゃ……

あら……
まだ疑って
いるの？

それじゃあ……

足を開いて
いやらしく
服従のポーズを
取りなさい

そんなこと
するわけ……

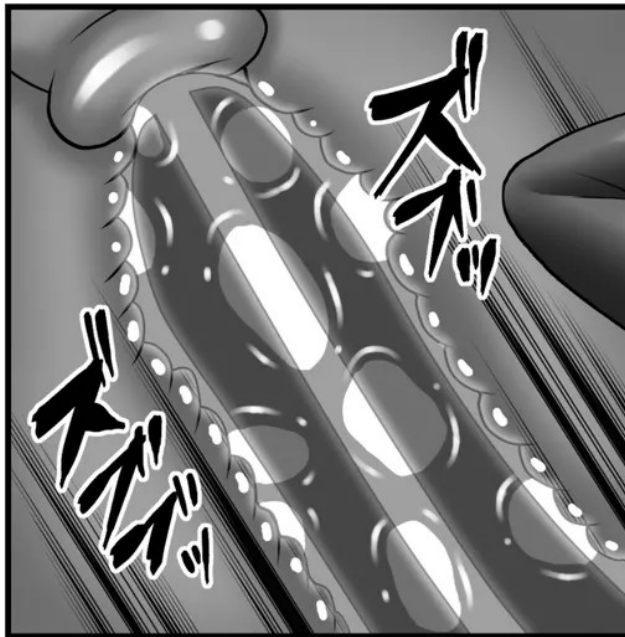
……ッ？！

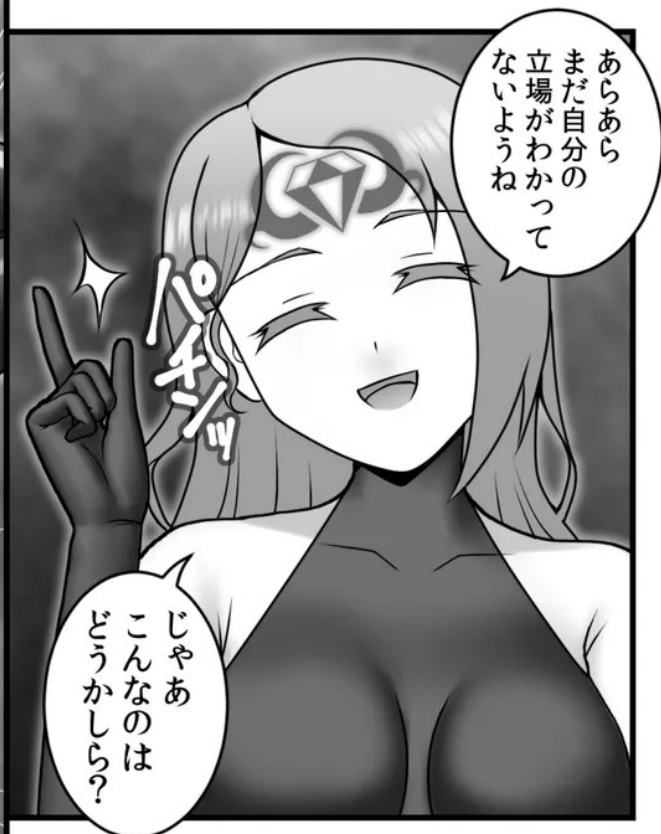
言ったでしょ
すべてわたしの
思うがままだって

それに
こんなことも
できるのよ

パァァァ

サッ







それから
身体を操られ
ただミドリ先輩に
されるがまま……

くッ！

うふふ
抵抗しても
無駄よ

はあッ！！



もうあなたは
この快樂に
抗う術はないの

そんなわたしを
あざ笑うかのように
指を鳴らされ



うあああッ！！

強制的に
絶頂させられる



あんッ！

あきらめなさい
アカリ

ああッ！！

必死の抵抗とは
裏腹に身体は
言うことを
聞かない



さあ舌を出して……

次第に身体は
どんどん快楽に
順応していき



チュウ

抵抗する力を
奪っていく……



ああッ!!

絶頂の瞬間
頭は真っ白になり

そうよ
もつと腰を
動かして

わたしは
ただ快感に
身体を震わせる
しかない

んんッ!

何も考えず
快楽に身を
任せるの



だめ……
こんなの……
快楽に流されて
しまう……

ああああッ!!

このままじゃ
いずれ
心さえも……



ここは
あなたの
精神世界……

心の反応が
身体に影響を
与えたの

自分は
小さくて
弱い存在
だってね……

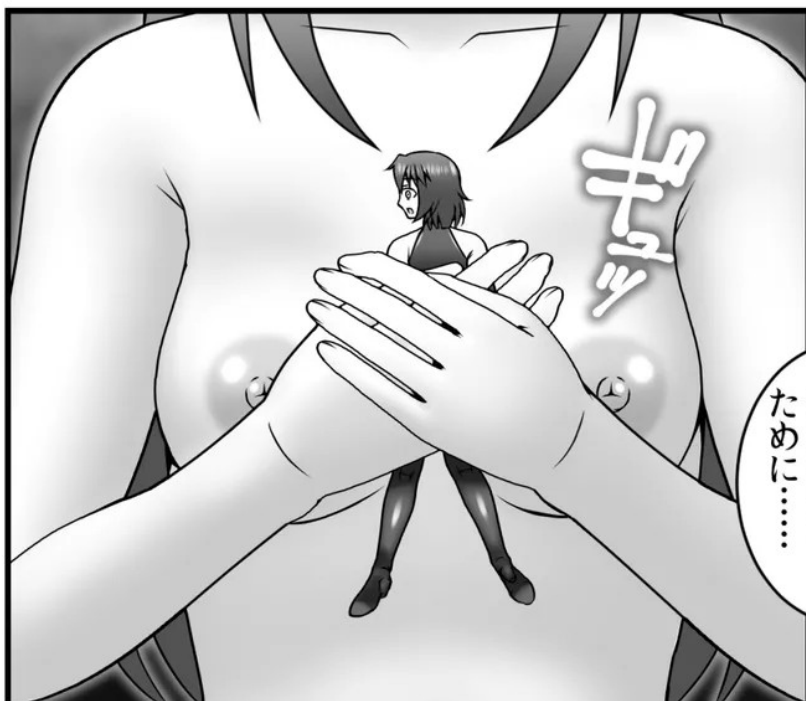
わたしは
弱い存在……

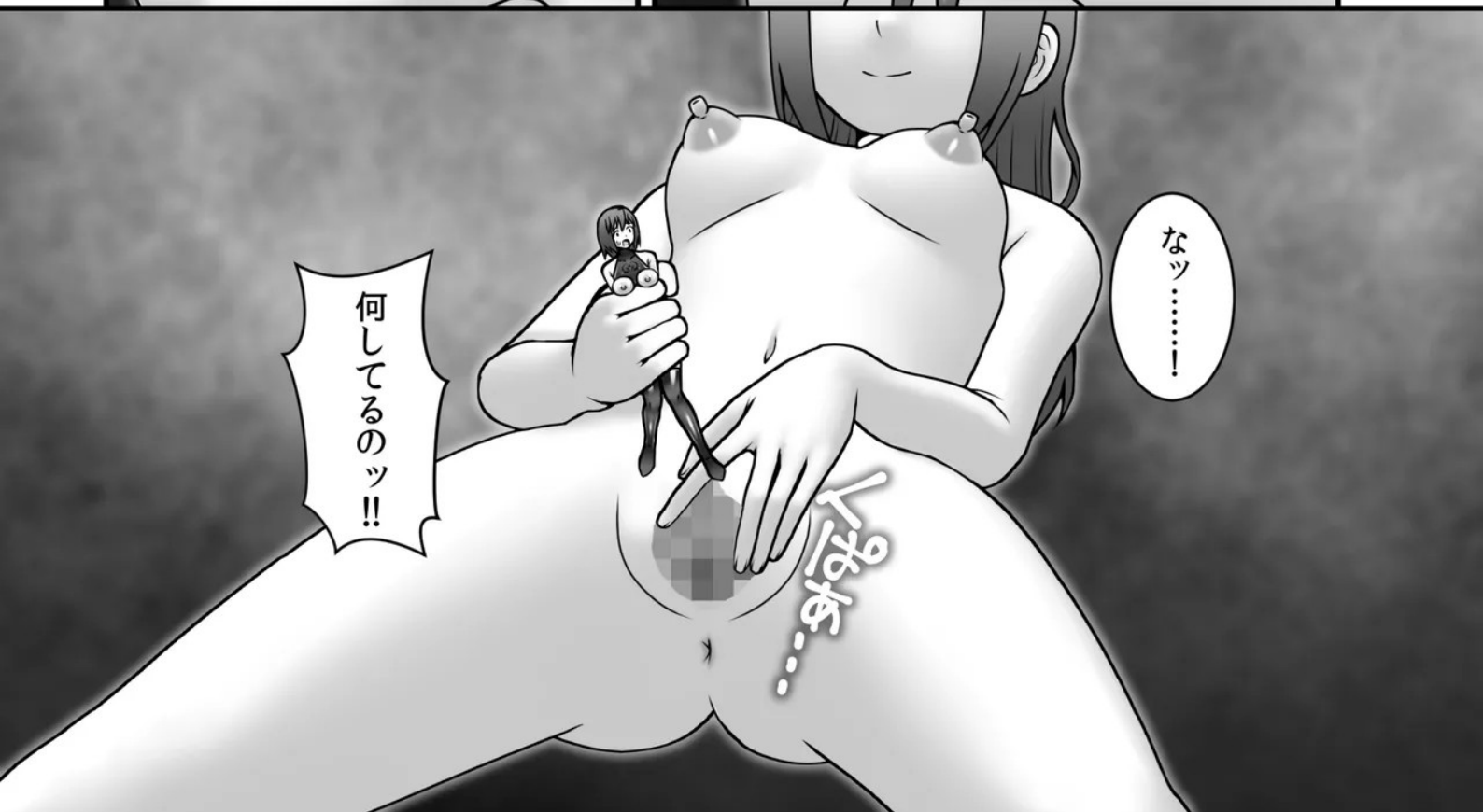
1/4……

顔を
上げなさい
アカリ

え……？

お母さん……？





さあ
アカリ……

私の膣内に
来て……

ひとつに
なりましょう

あ……
お母さんの
膣内に
飲み込まれ……

ガッ

お母……
さ……

あつ……
あッ……

ズズ

ズズ

ひっ……

ガッ

ズズ

だめ……
ここから
出ないと……

出ないと
いけないのに……

お母さんの膣内
あたたかくて
安心する……

気持ちよくて
抵抗する力が
湧いてこない……

わたし……
お母さんと一緒に
いられるのなら

もう……

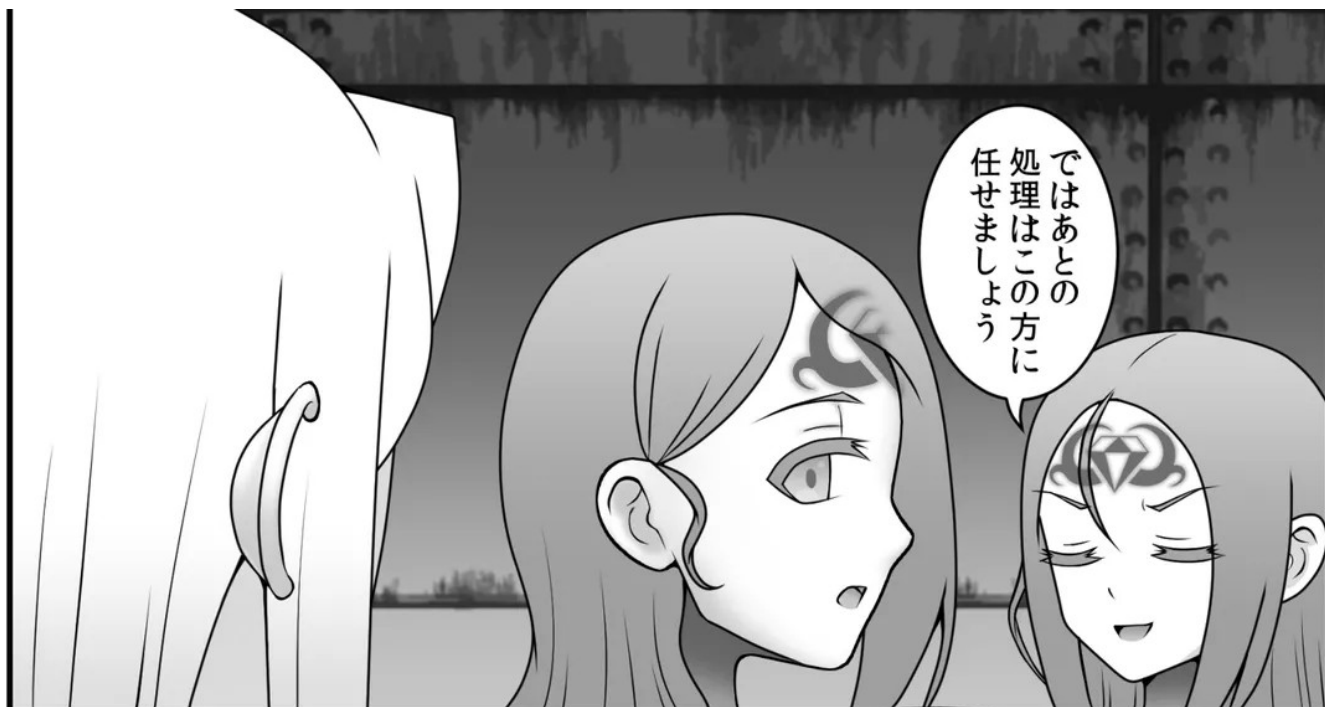
終わったのですね
ミドリ先輩

ええ……

アカリの
心は完全に
折れたわ

もう
戦う必要も
ないでしょう

……



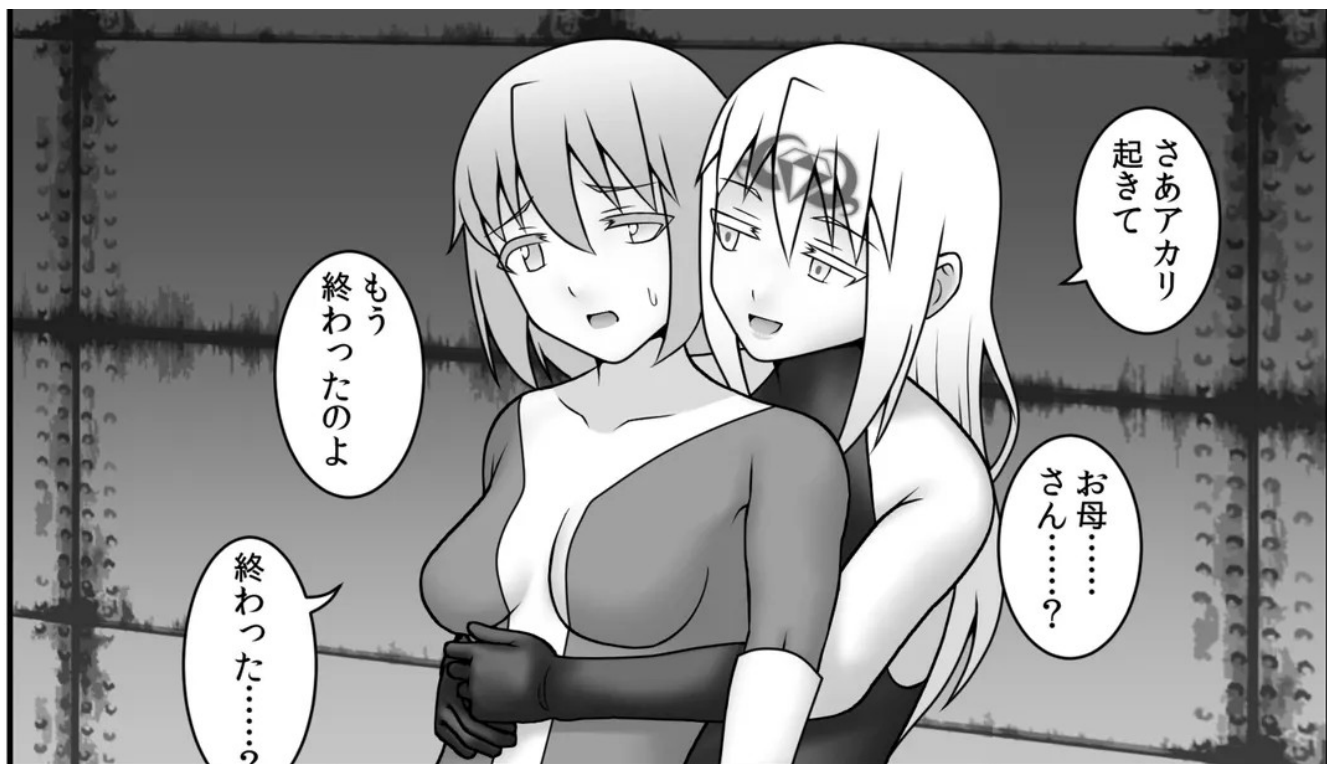
ではあとの
処理はこの方に
任せましょう



アカネ司令
いえ……

黒き戦闘員
アカネ

はッ！
お任せください
シオン様



さあアカリ
起きて

お母……
さん……？

もう
終わったのよ

終わった……？



私たちは
負けたの……

黒きダイヤにね

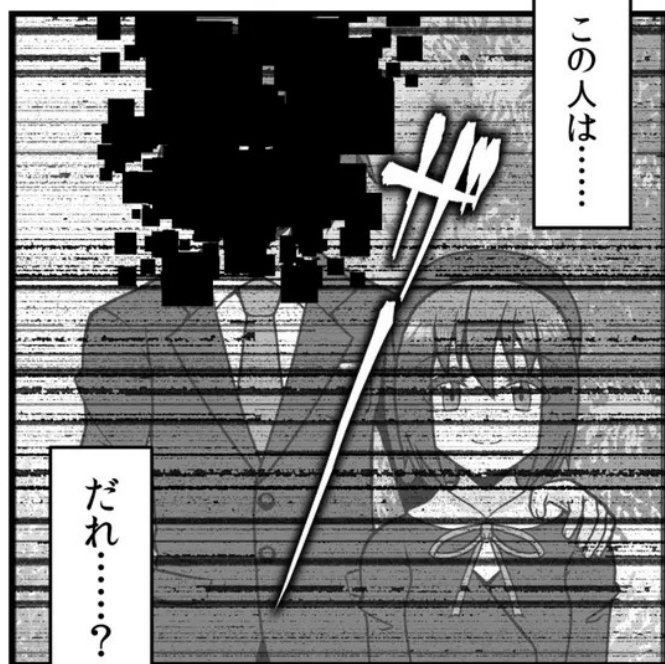
あッ!!



でもアカリも
わかった
でしょう？

快楽に身を
委ねることが
こんなに幸せな
ことだって……

だめ……
抵抗……
できない……



この人は……

だれ……？



あれ？
わたし……

何のために
戦ってたんだっけ？



さあアカリ
ヴァジナスーツを
解除して

そして
黒きダイヤに
ヴァジナベルトを
捧げましょう

ヴァジナベルトを
捧げる……？



そうすれば
私たちは
ずっと一緒に
いられるの

ずっと
一緒に……

お母さんと
ずっと一緒に
いられるのなら……

オムツ

もう何も
いらない……

オムツ



これで
アカリも
終わったわね

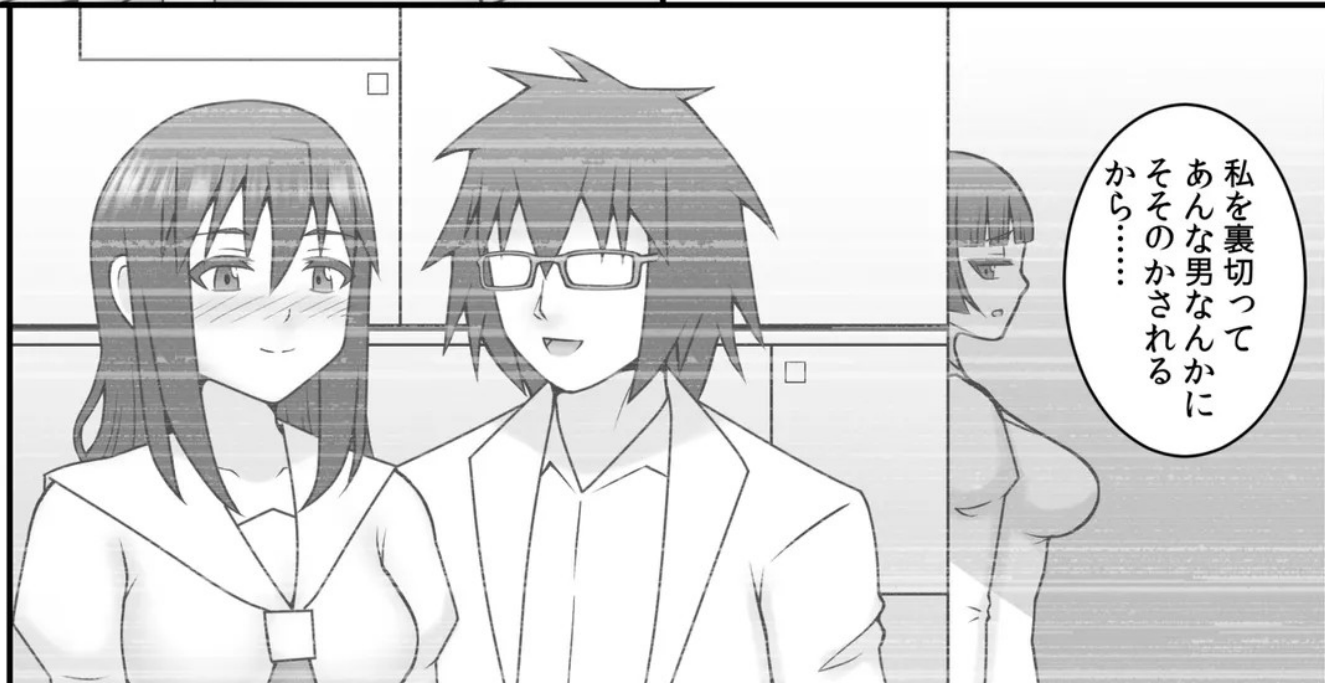
うふふ……



私たちは
誰よりも
愛し合っ
ていたの……

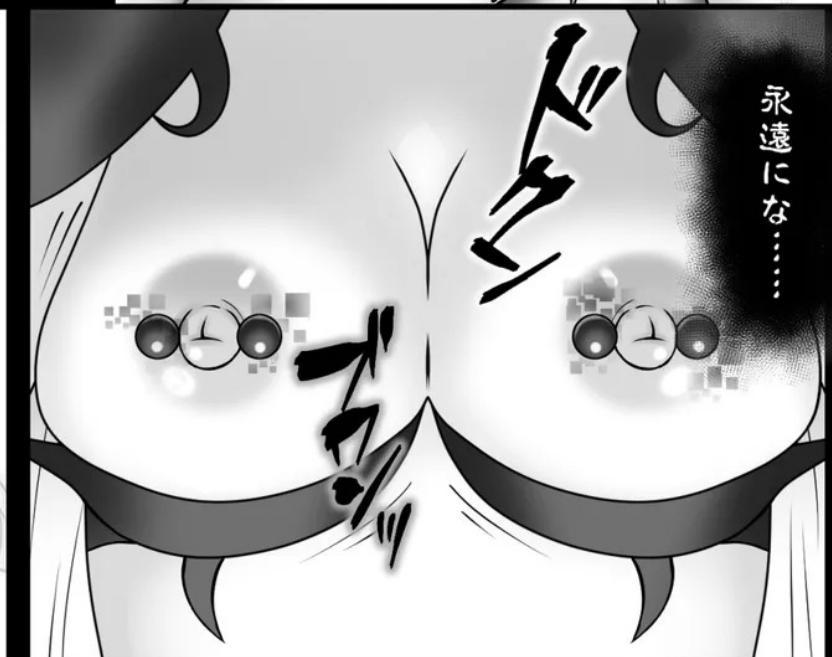


アカネ
あなたが
悪いのよ



私を裏切っ
てあんな男
なんか
にそその
かされる
から……







ようやく
戻ってきたぞ……

ククク……



この世界を支配し
黒に染めし者……

わらわこそ
黒きダイヤの女王
クロエ



ふむ……
良い獲物も
いることじゃ

さっそく
この身体が
どれほどのものか
試してみるかのう



ククク……
あの小癪な
ヴァジナレッド
アカネ……

その娘と
交わる日が
来るとはな



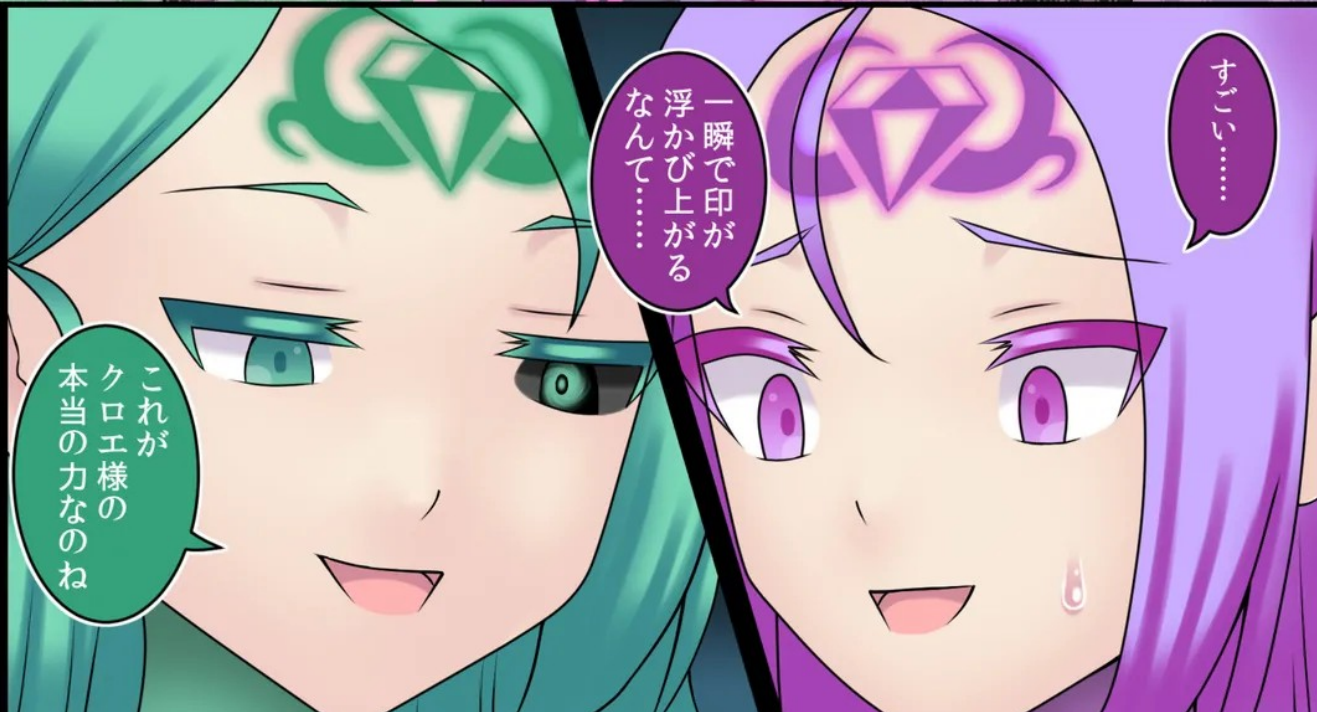
ひッ!

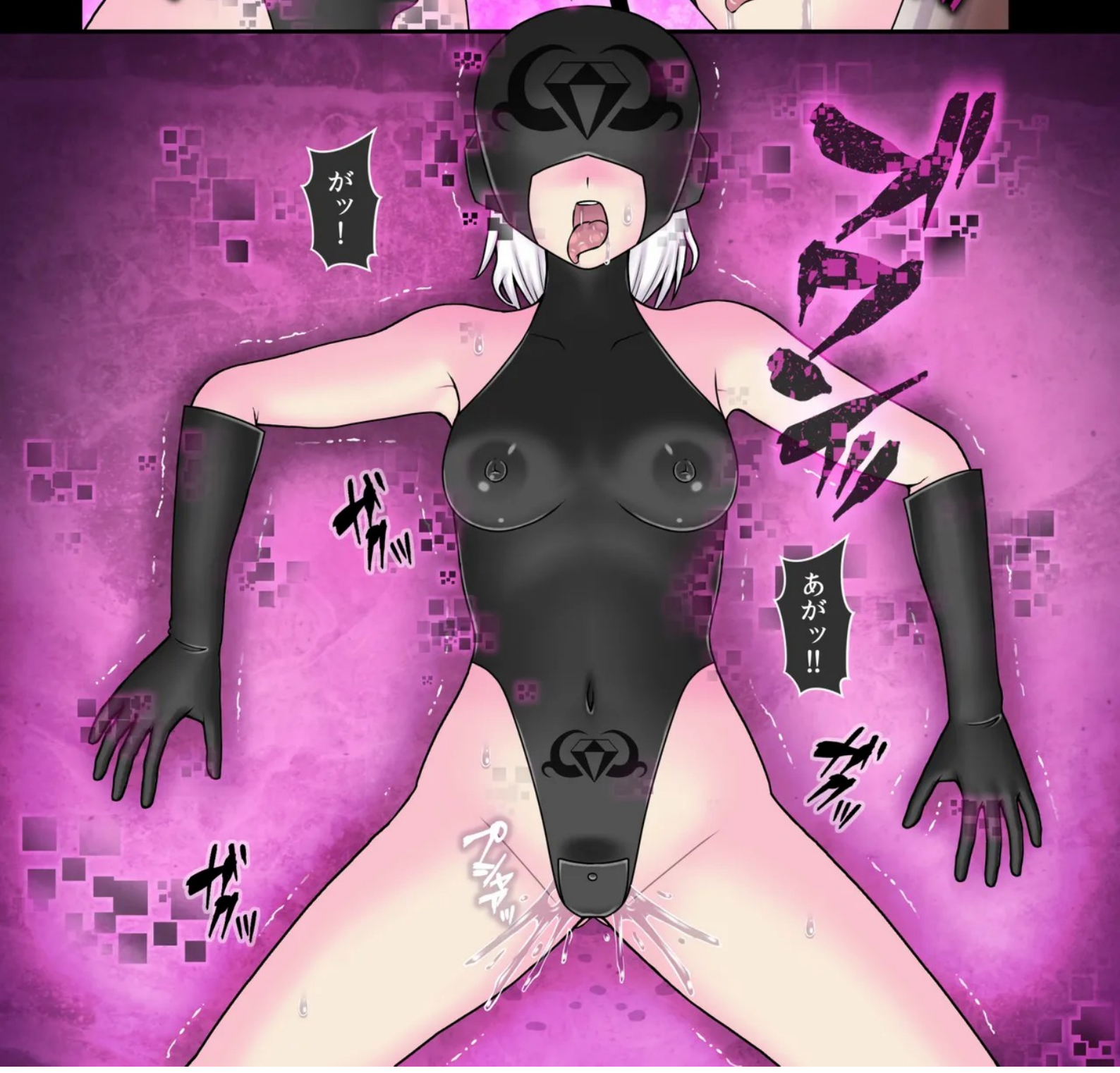
存分に
受けるがよい



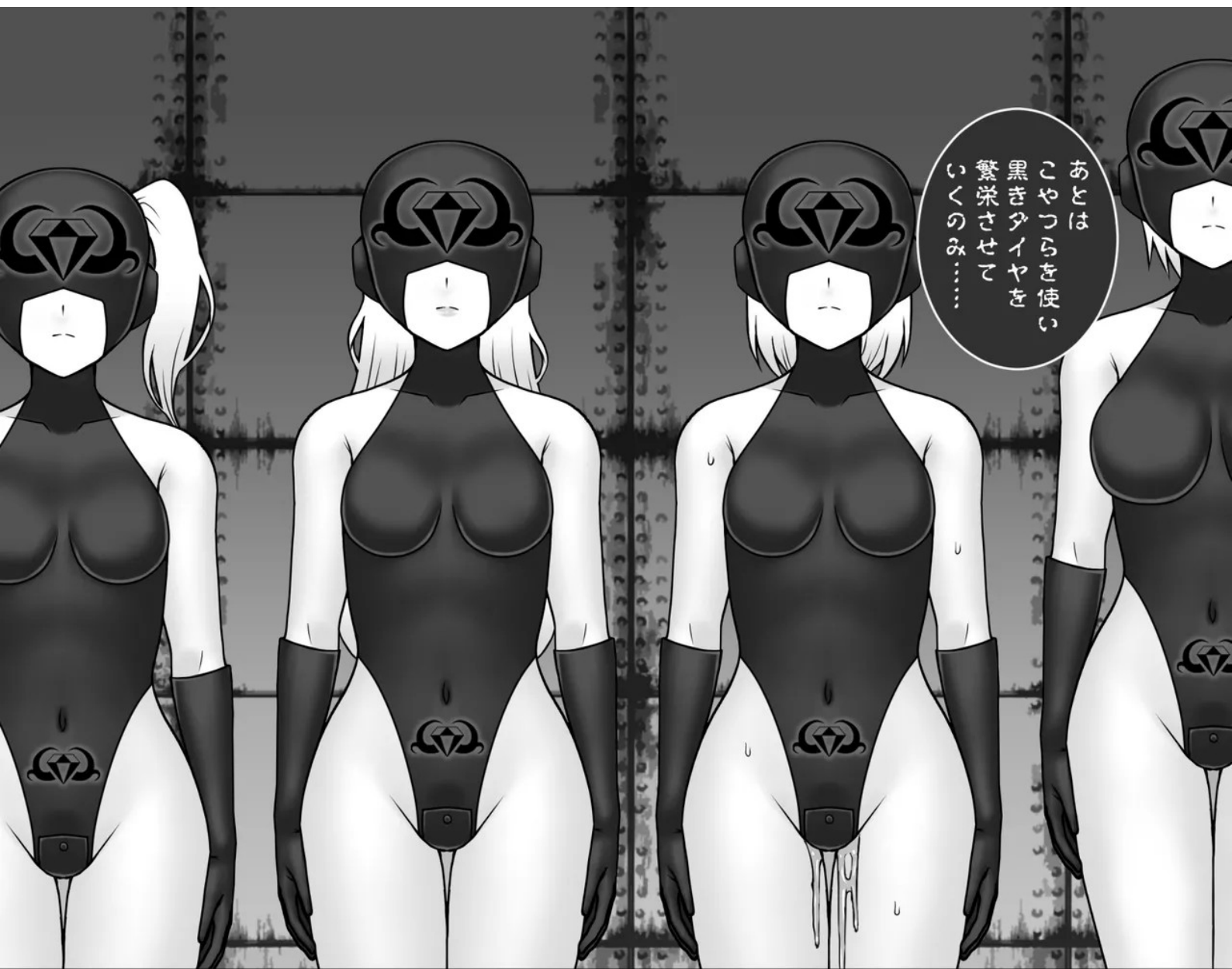
親子で
わらわに
齒向かった
罪……

キクッ!!









あとは
こやつらを使い
黒きダイヤを
繁栄させて
いくのみ……



今度こそ
わらわが
この世界を
支配して
くれようぞ

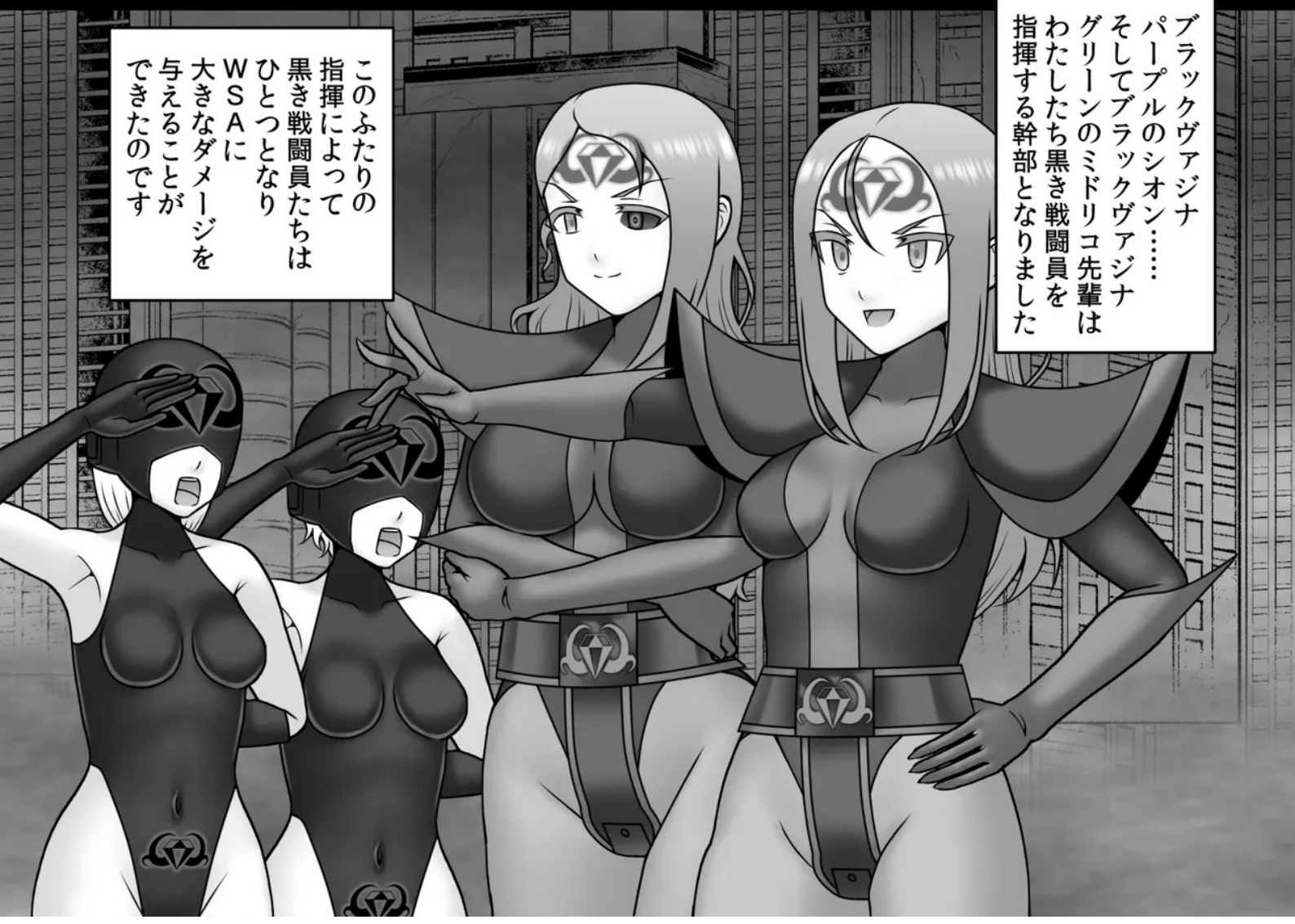
フハハハハッ！

それから世界が
黒に染まるのに
そう時間は
かかりませんでした……



その後
黒きダイヤは
WSAに総攻撃を
仕掛けました

そこでは
黒き戦闘員の
アオイ先輩が
先頭に立ち
活躍したといいます



ブラックヴァジナ
パープルのシオン……
そしてブラックヴァジナ
グリーンのミドリコ先輩は
わたしたち黒き戦闘員を
指揮する幹部となりました

このふたりの
指揮によって
黒き戦闘員たちは
ひとつとなり
WSAに
大きなダメージを
与えることが
できたのです



キリノは
ミコク様の
従順な部下として
黒き獣を従え
実験体となる
ヴァジナ隊員を
捕らえ連れ帰って
いるようです



そして
ヴァジナ隊員たちを
ブラックゲノム
ヴィラネスに
生まれ変わらせ
その数を増やし
続けているのです



そして私たちの
仲間になり
クロエ様のために
生きるのです



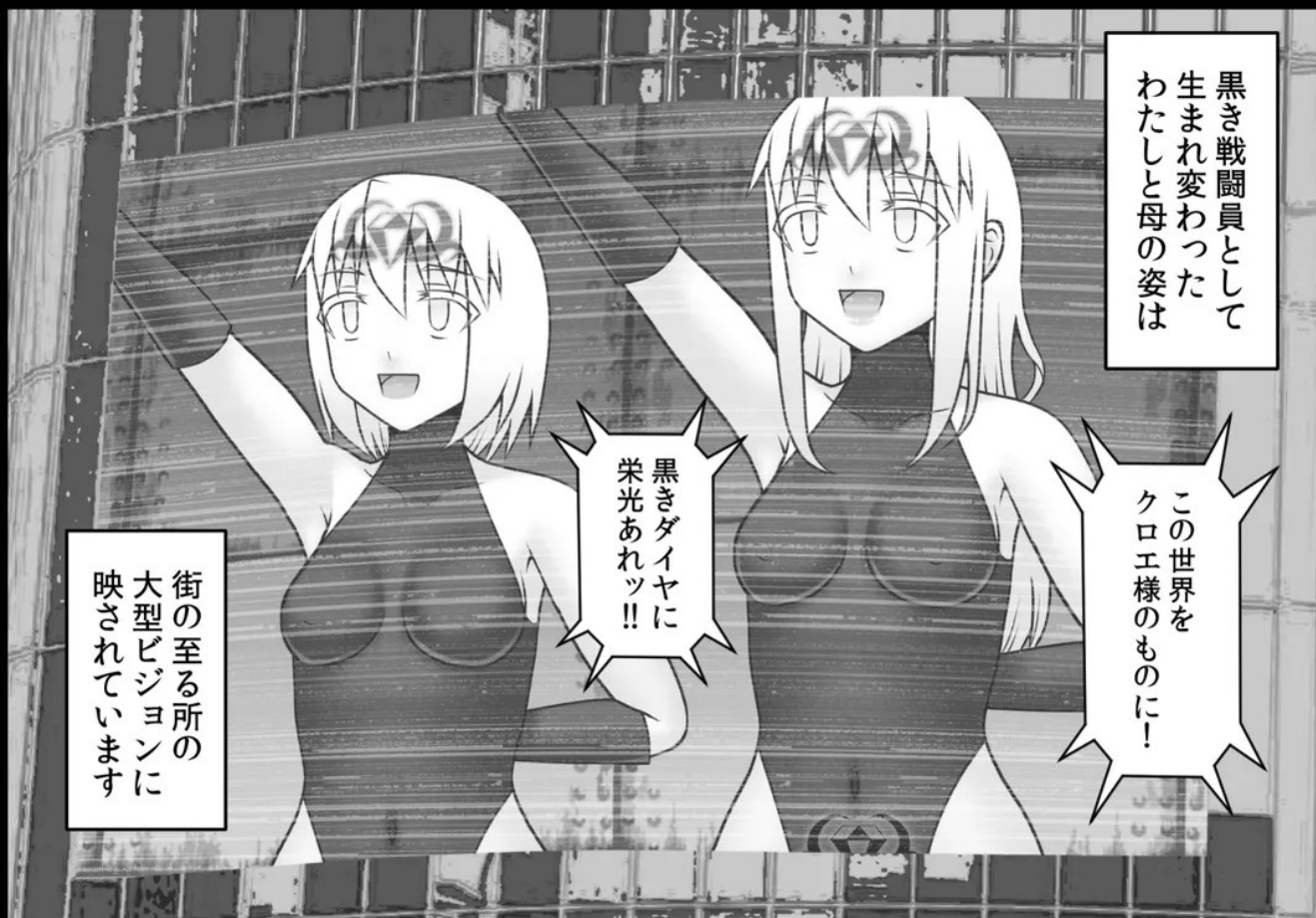
それが私たちの
喜びであり
幸せなのです



そして
わたしは……

W S A の
ヴァジナ隊員の
みなさん

無駄な抵抗はやめ
黒きダイヤに
投降しましょう



黒き戦闘員として
生まれ変わった
わたしと母の姿は

この世界を
クロエ様のものに！

黒きダイヤに
栄光あれッ!!

街の至る所の
大型ビジョンに
映されています

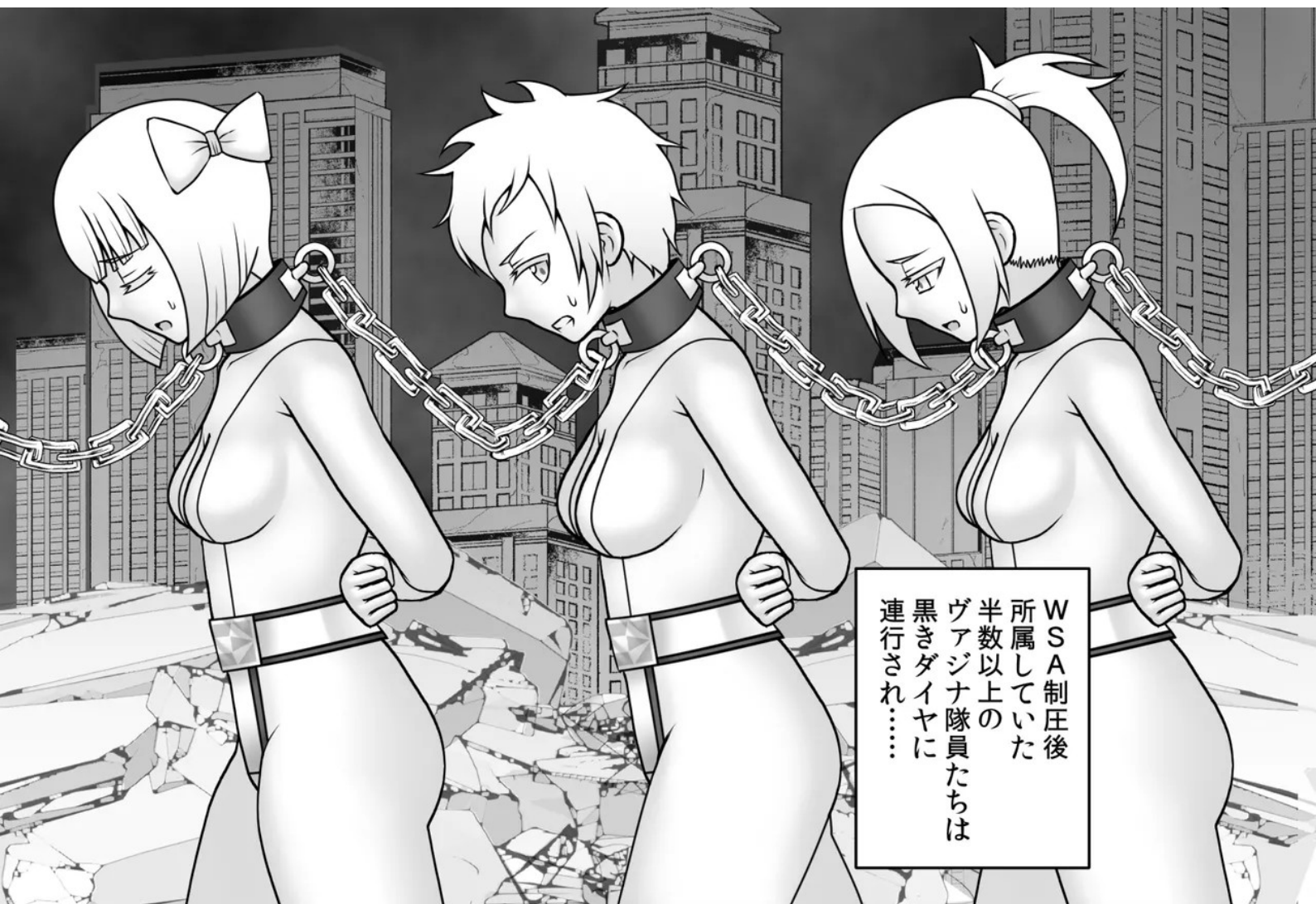
W S Aの
英雄であつた
わたしたちの
その惨めな姿に

数多くの
ヴァジナ隊員たちが
心を折られたと
います

そして
ヴァジナカラーズを
失つたW S Aには
抵抗する力はなく

瞬く間に
黒きダイヤの一員に
生まれ変わった
わたしたちの
手によって
制圧されたのです

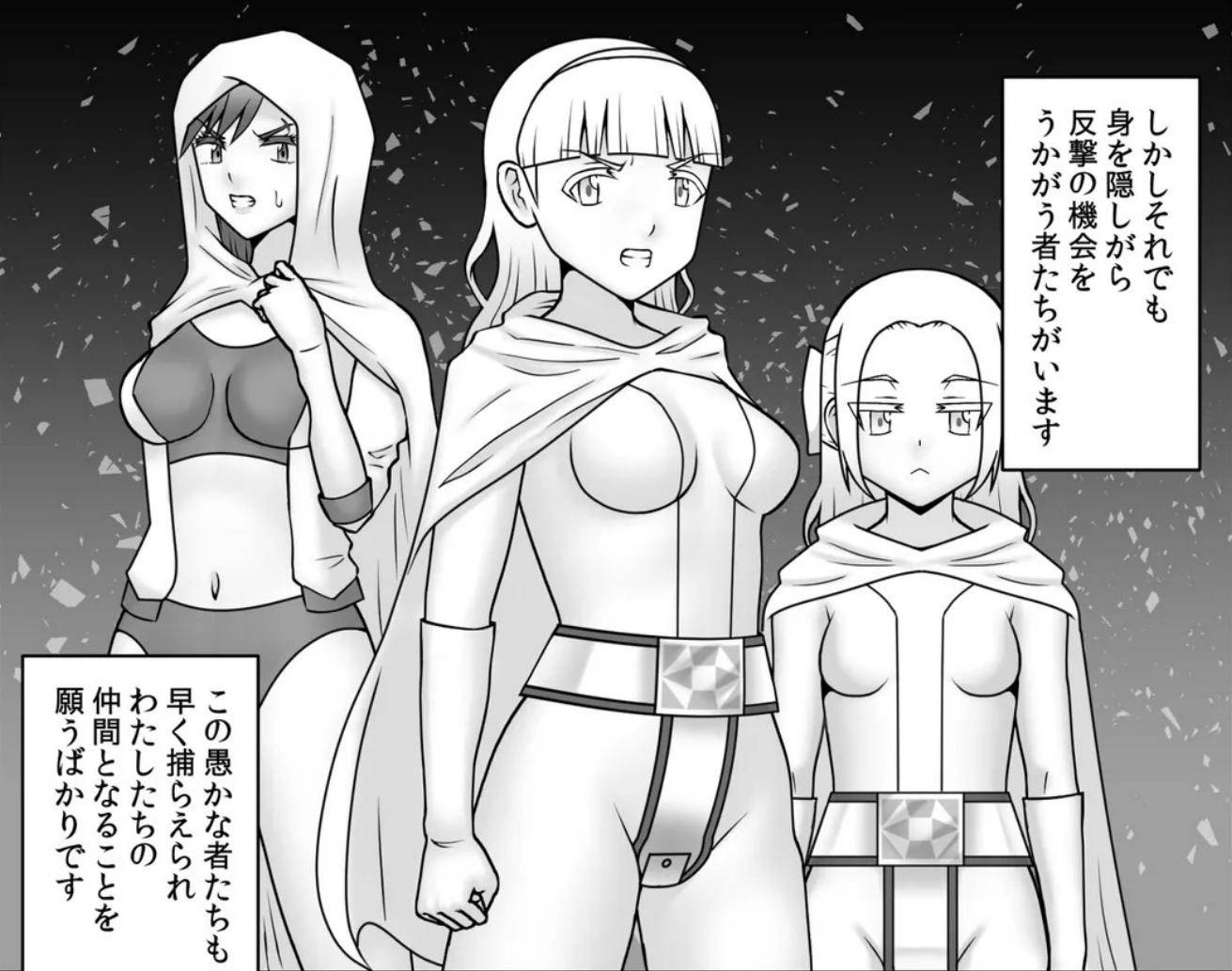




W S A 制圧後
所属していた
半数以上の
ヴァジナ隊員たちは
黒きダイヤに
連行され……



その姿を
わたしたちと
同じように
黒き戦闘員へと
変えました

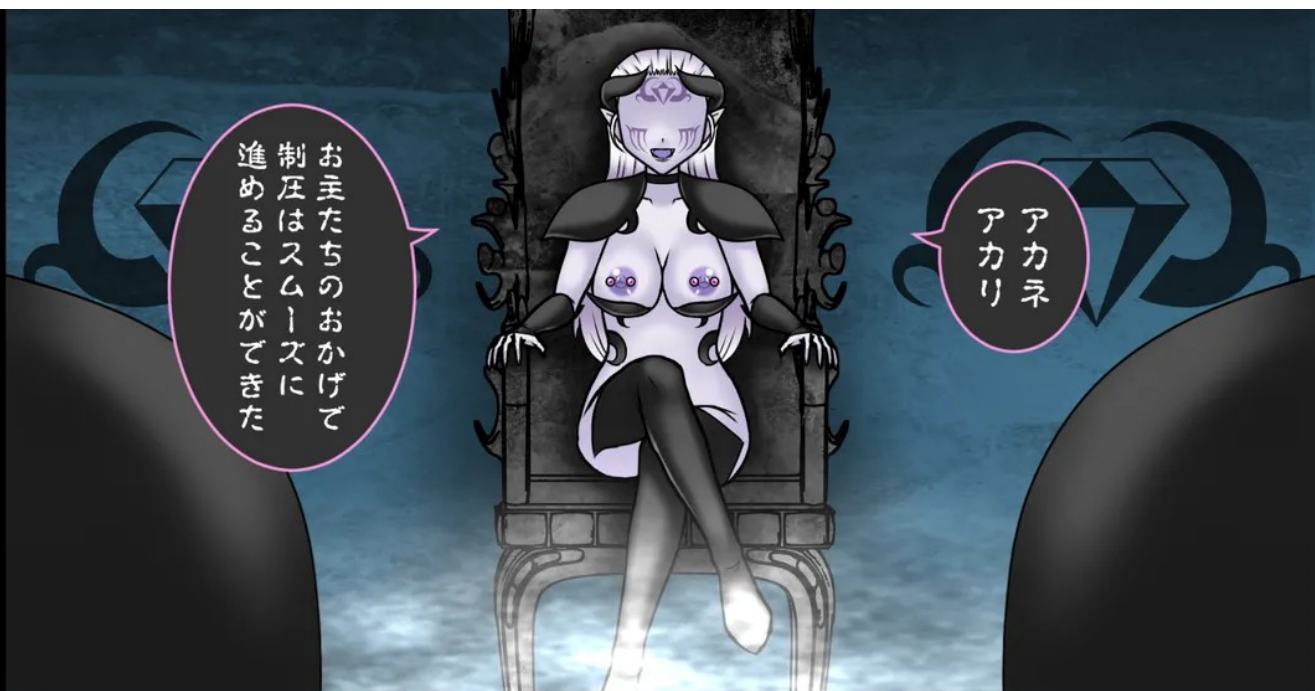


しかしそれでも
身を隠しながら
反撃の機会を
うかがう者たちがいます

この愚かな者たちも
早く捕らえられ
わたしたちの
仲間となることを
願うばかりです



そして世界は
女王クロエ様率いる
黒きダイヤの支配下
に置かれることと
なったのです……



お主たちのおかげで
制圧はスムーズに
進めることができた

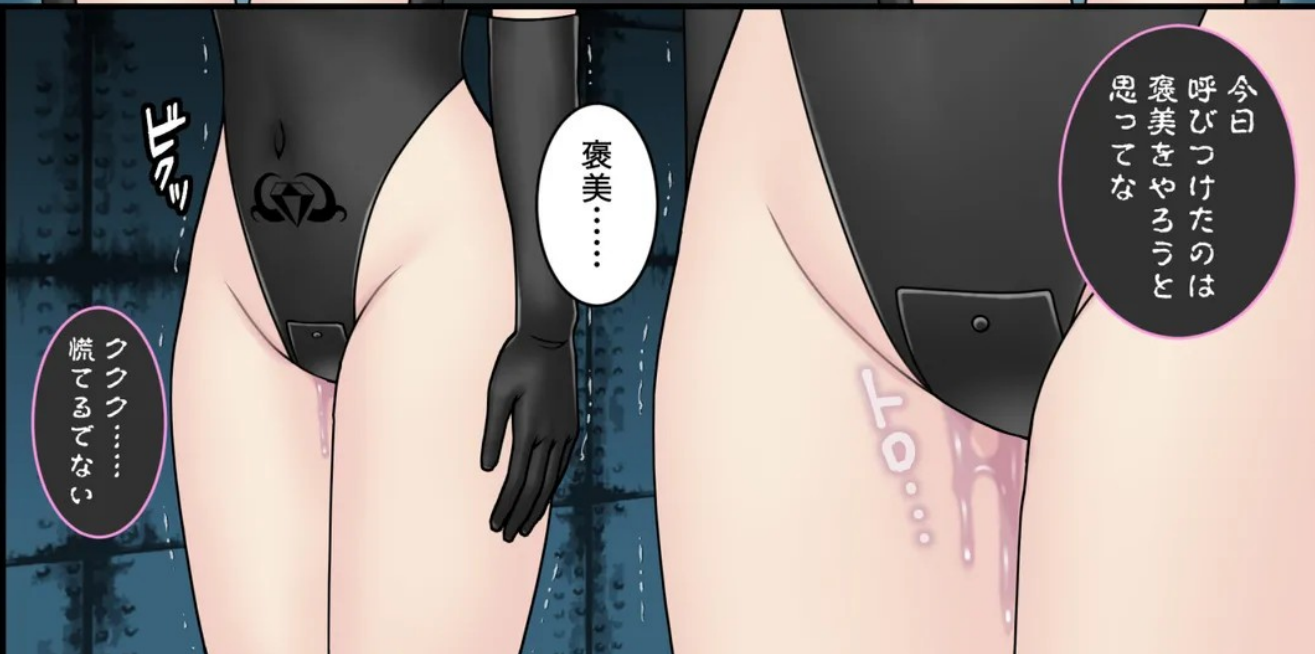
アカネ
アカリ



さすが
世界の希望であった
ヴァジナレッドじゃ

ありがとうございます
ございます

クロエ女王様
のお役に立てて
光栄です



今日
呼びつけたのは
褒美をやるうと
思ってたな

褒美……

ククク……
慌てるでない



アカリよ……



何も言わずとも
お主の希望は
わかっておる



身体が……

わたしの
身体が
溶けていく……



わたしが
わたしじゃ
なくなって……

あッ……



んんんんんッ!!



ククク……
見事に玩具と
成り果てたな
アカリよ

さあアカネ
存分に
可愛がって
やるがよい

はッ！
ありがとうございます
クロエ様

コト……



ああ……
アカリ
こんな姿に
なつて……

とても
いやらしくて
素敵よ

ぴん

ぴん

さあ
私の膣内で
ひとつに
なりましょう

私たちは
ずっと一緒よ

あかりいいいいツツ!!

こうして
わたしの戦いは
幕を閉じました

わたしはいま
満たされた
幸せな毎日を
送っています

この世界を
クロエ様のものに！

黒きダイヤに
栄光あれッ!!

こんな幸せを
与えてくれた
クロエ様には
感謝しても
しきれません

これからも
ずっとこの幸せを
感じながら
存在できればと
そう願っています

お母さんの
膣内で……

終

貞操戦隊 ヴァジナカレース

最終話

制作：IceLee / STUDIO HP+

Twitter：icelee_i3

pixiv：63625

Mail：i3-hpplus@infoseek.jp

HP：<http://studiohpplus.sakura.ne.jp/>

未成年者の購読・閲覧を禁じます。
無断複製・転載・アップロードを禁じます。

ヴァジナレッド・アカリの能力



ヴァジナレッド・アカリの能力は瞬速。
目にもとまらぬ速さで攻撃を行う。
攻撃の度にどんどん加速し攻撃力も増していく。



第一話でアカリがシオンを助けるシーンも
この瞬速能力を使っている。

ちなみにアカリは蹴り技を得意としている。

アカリの父親



アカリの父親はアカネと結婚前から
WSAでヴァジナベルトの研究をしていた。
ほとんど女性職員のWSAで男性が勤めるのは
異例でそれほど研究員としての才能があった。

暗殺されたのはヴァジナベルトの秘密を
握っていたという噂も……

アカネとハルカの関係



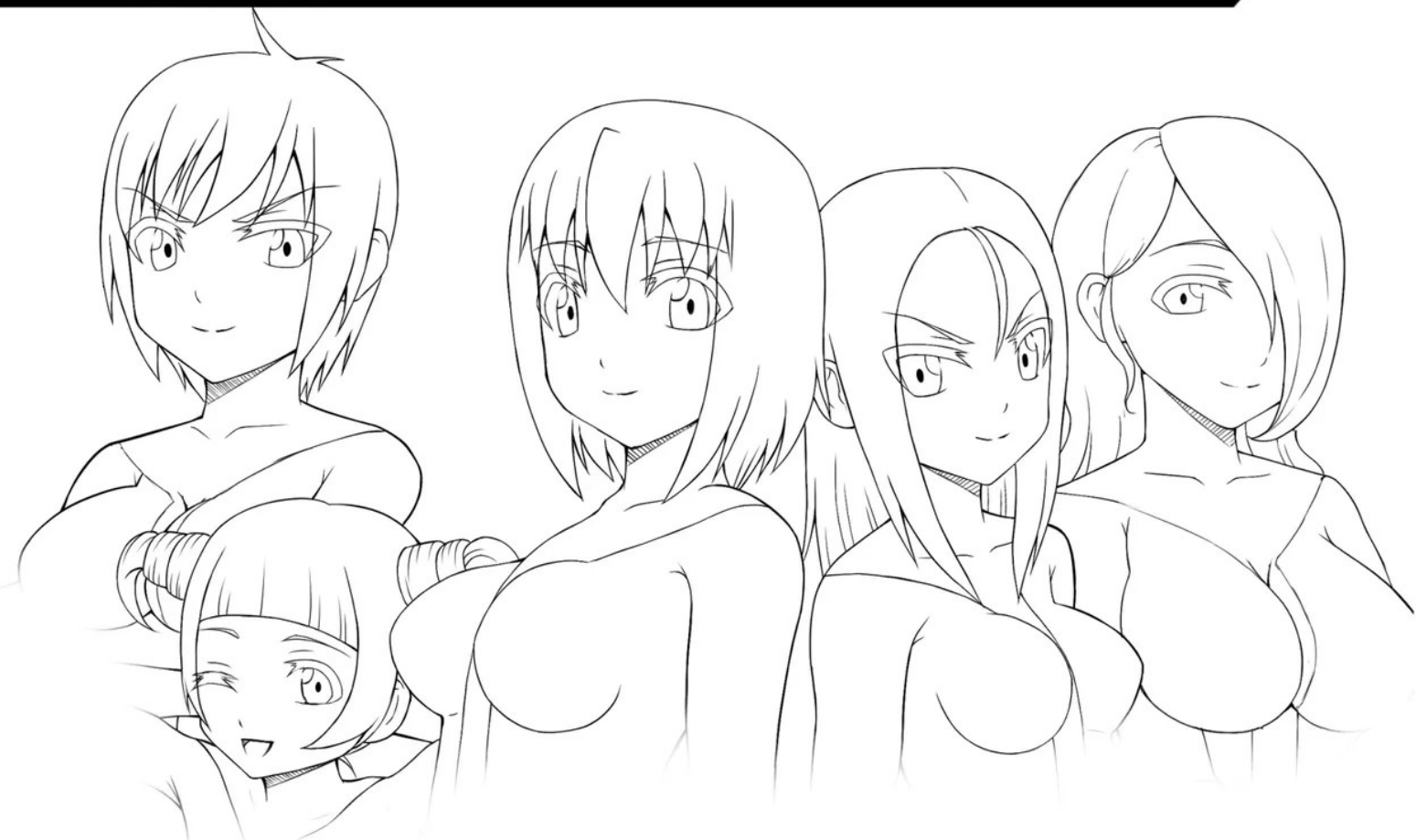
アカネとハルカはヴァジナ隊員時代、恋愛関係にあった。しかしアカネが男性研究員(アカリの父親)に恋をしてしまい関係は終わりを向かえる。

その後もヴァジナレッドとヴァジナブルーとしてふたりは戦い続けるがクロエとの決戦でハルカは犠牲となってしまう……

しかし数年後、ハルカはクロエと一身となり蘇ることに……

このあたりの話はあまりエロシーンもなく話もどんどん複雑になってしまったので一旦ここで最終話とさせていただきます。また何かの機会で描ければと思います。

最後に



「貞操戦隊ヴァジナカラーズ」を読んでいただきありがとうございました！